



Anchor

アンカー



INSIDE

驚くべき預言の成就 2

ニュースウォッチ 9

罪の除去 12

愛なる神の罪の処理のしかた 19

船は無事に目的地に着くか? 27

ビル・ヒューズ牧師による講演の
ダイジェスト 34

53号
2014年8月

ローマ法王の 巧みな一致運動の呼びかけ



ケネス・コーブランド・ミニストリー教役者集会の様様

序：2014年1月、米国テキサスに本拠を置く、プロテスタント・カリスマ刷新系の「ケネス・コーブランド・ミニストリー」の教役者（牧師）集会に私的なビデオメッセージがフランシスコ法王から送られたことが、カトリック通信社 ZENIT で伝えられた。そのビデオと、テレビ伝道師ケネス・コーブランド氏の集会のその時の模様を撮影した映像が YouTube で公開されている。まさに「各時代の争闘」に預言されている教会一致運動が津波のようにやってきた。

カリスマ運動というのは、異言、癒しを伴う聖霊運動だ。この総会をリードしているのは、アメリカで有名なケネス・コーブランドという牧師。法王フランシスコのメッセンジャーとして説教に立った人がトニー・パーマーという人で、聖公会の司教。カリスマ運動集会において、まずケネス・コーブランドが挨拶する。



ケネス・コーブランド

「今晚特別なゲストを皆さんに紹介します。トニー兄弟、こちらへ来てください。トニー・パーマーは、自分がどのように聖職者として導かれ、また今の法王の親友になったか、エキュメニカル運動の特使という役割を法王から与えられたかを証します」。聖公会から別れた教会の1つで、聖公会の福音派の伝統を汲んでいる教派の主教で英国人のアンソニー・(トニー)・パーマーのメッセージ：



トニー・パーマー

今晚は歴史的な瞬間です。

私は3人のローマ法王に仕えてきました。ヨハネ・パウロ2世、ベネディクト16世そして次に法王フランシス。ご存知のように、今の法王フランシスは、オープンな、寛大なカリスマ的な方でした。聖フランシスの名前をとった歴史上、最初のローマ法王です。ローマ法王は、我々を公然と兄弟姉妹として認めて話しています。そして我々にメッセージを送ってくれました。皆さんに、彼のメッセージがどんなものであるかをお見せします。

私はみなさんにその背後の歴史のほんの少しを理解してほしいと思っています。我々は信じられないほど重要な世代に生きています。私は、皆さんがこの会議に招いて下さったことを感謝します。

バプテスマのヨハネは、エリヤの霊をもって、子供らの心を父たちに向け、そして父たちの心をその子供らに向けて、主のために道を備える働きをしました。

預言には常に二重の適用があります。我々はエリヤがキリスト再臨の前に来ることを知っています。エリヤの霊は、お互いの心を和解させる霊であると私は理解していました。これは非常に重要なことです。

最初の紀元1千年は一つの教会があったことを知っています。それはカトリック教会と呼ばれました。「カトリック catholic」とは、「universal 普遍的な、万人の、全世界の」という意味で「ローマの」という意味ではありません。

皆さんの中で生まれ変わった人がいたら手を挙げてください。

では、皆さんはカトリックです！ 皆さんが失ったものを取り戻してください。我々はカトリックなのです！

最初の1千年の半ばに分裂が起きました。ローマ教皇を首長とするカトリック教会（西方教会）と、東方の正教会とに二分されました。そして500年経ってルターとそのプロテスタントたちがカトリックに抗議しました。1500年の間に3つの教会となりました。ルターの宗教改革以来33,000の新しい教派が出来ました。

コメント：

「紀元1千年は一つの教会であった。プロテスタント教会は33,000の教派に分かれた。イエスの祈りに答えて一つカトリックになろう、皆キリストの兄弟姉妹なのだ」という。これは真実だろうか。否、否である！ 聖書によると、ローマ法王教は「反キリスト」、ダニエル7章、黙示録13章の天の神に対して冒瀆を吐く「小さい角」全世界支配を狙っている「獣」である。黙示録12章によると、「女（真の教会）」は1260日/年の間、カトリック教会の迫害を逃れて「荒野へ逃げてそこで養われていた」のである。彼らが**真理の保管者であり、混ぜ物のない真理**を持っていたのである（大争闘上 64, 65）。

トニー・パーマー：

私は、多様性は神聖なものと理解しますが、分裂は極悪非道なものと考えます。

皆さんが言うグローリー、栄光とは神の臨在です。「カリスマ的維新」とは何ですか？ それは神の臨在の体験であり、神は「彼らに栄光を与える」と言われました。実際的な理由は「彼らが一つとなるため」です。

コメント：

「**カトリックは多様性の一致**」を説く。預言者（エレン・G・ホワイト）もその言葉を使っている。しかし、その内容は違う。真理は何時の時代にも分離をもたらしてきた。イエスが祈られたのはヨハネ 17:17にあるように「真理によって彼らを聖別してください」であった。聖書は「健全な教えすなわち教理」による一致を教えている。

初代教会のクリスチャンたちは、

「教会が虚偽と偶像礼拝とを捨てることをなお拒否するならば、背信した教会との一致をすべて絶つ決心をした。彼らは、神のみ言葉に従おうとするならば、分離することが絶対に必要なことを認めた。彼らは、自分たちの魂を危険に陥れる誤りを黙認したり、自分たちの子孫の信仰を危うくするような例を残したりすることはしたくなかった。彼らは、神に対する忠誠と矛盾しないかぎり、どんな譲歩でもして、平和と一致を保とうとした。しかし、平和のために原則を犠牲にすることは、あまりにも大きな代価であった。真理と正義を曲げなければ得られない一致であるならば、彼らはむしろ不和をも、そして戦争をもいとわなかった」(大争闘上 39)。

トニー・パーマー：

我々を一つに接着させるのは栄光であり、教理ではありません。

私のうちにキリストが生き、私の内に、あなたの内に神が臨在されるということを受け入れること、我々の必要とするものは、それだけです。

コメント：

I テモテ 4:16 「自分のことと教(教理)のことに気をつけ、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる」。

パウロは、繰り返し、教え(教理)の重要性を強調している。

主イエスは、真の一致は真理によると言われた。

ヨハネ 17:17 「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」。

「プロテスタント教会内の大きな信仰の差異は、どんなに努力しても一致を図ることはできないということの決定的証拠であると考え人が多い。しかし、ここ数年にわたって、プロテスタントの諸教会内において共通の教義を土台として合同しようとする気運が強く動き出している。このような合同を達成するためには、たとえ聖書の見地からどんなに重要なものであっても、すべての者が一致しない問題点は、必然的に

放棄されねばならなくなる」(大争闘下 164)。

トニー・パーマー：

さて、なぜ、今日のことが歴史的かと言いますと、1999年にローマ・カトリック教会は、プロテスタントであるルーテル教会と、信仰によってのみ救われるということで合意し、調印しました。アーメンですか？ しかし、それで終わっていません。カトリック教会は、行いによって救われると信じていました。プロテスタントが抗議したことはそのことでした。

1999年にこの信仰による義認において同意し調印しました。なぜなら、プロテスタント教会において安価な恵みという教えがはびこっているからです。人々は生まれ変わったと言いながら、何の实も実らせていません。実を見つけようとしなかったのです。そんなこと(行い)は問題ではないというのです。それは救いに必要ではないと言っています。

そうではありません。あなたが救われているということは正しいです。そこで、この二つの教会は、二つの信仰による義認の定義を一つにしたのです。聞いて下さい。

ローマ・カトリック教会のウェブサイトから読んでみます：

「義認の意味するところは、キリストご自身が我々の義であり、聖なる父の御心に従って聖霊によって与えられるものである。我々はカトリックとプロテスタント(ルーテル教会)共に、我々が神に受け入れられるのは、恵みによってのみ、キリストの救う御業に対する信仰によるのであり、我々の側には何の功績もなく、聖霊によって我々の心が新たにされ良き業に至らせるのだということ信じ、告白するものである」。

コメント：

●確かにプロテスタント教会は、安価な恵みという教えに溺れている。“Once saved is eternally saved”「一度救われたら、永遠に救われている」といった律法の不用論、服従と救いは関係ないという思想がまかり通っている。

カトリックの信仰による義認は、プロテスタン

ト宗教改革者たちの言った事と同じかどうか、よく気を付けなければならない。生まれ変わった聖徒たちのどんな良い行いにも何の功績もない。天国に行っても贖われた者たちは永遠にわたって「ただあなただけが聖なるお方です」と叫ぶ。黙示録 15:4。

パウロは、信仰による義認のチャンピオンであったが、律法を行うことによっては義とされない、信仰によって恵みによって義認され救われると言っているが、律法、服従について彼は何と言っているだろうか：

「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである」ローマ 3:31。

ヨハネは、黙示録 14:12 で「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」と言っている。

主イエスは、「よく言うておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである」と言われた。マタイ 5:18

カトリック教会が、十戒の第二条を取り除き、安息日を変えた事実を知ると、カトリック教会の信仰による義認はエデンでエバを騙した偽りであり、詭弁であることに気づかなければ、大変なことになる。

トニー・パーマー：

これは、ルターの抗議（プロテスト）に終止符を打ったのです。1999年に世界ルーテル教会連盟はこれに調印しました。約5年経ってメソジスト教会も調印しました。

しかし、我々、プロテスタント福音派はいまだに立ち上がり、兄弟姉妹として、恵みによって、良き行いに至らせる信仰による救いに調印していません。これこそ、今やらなければならない事だと私は信じます。これは、皆さんに投げかけられている挑戦です。もう、15年前に抗議（プロテスト）は終わったのです。

私の友である牧師の皆さん、もしプロテスト（抗

議）がなければ、どうして我々はプロテスタント教会と言えるでしょうか？

我々は再び皆カトリックと言えないでしょうか？ しかし、我々は世界的な意味で改革された、カトリックなのです。

もはや我々は、カトリック教会の信仰による救いの教理に抗議していません。我々は今や、同じ福音を説いているのです。恵みと信仰のみによる、み言葉のみによる救いを説いている。これが500年間の論争であったのです。ご自身で公式のカトリック教会の文言を読んでみてください。抗議（プロテスト）は終わったのです。

コメント：

カトリック教会は、プロテスタントと同じ福音を説いていると言っているが、そうだろうか。黙示録 14:6-12に「永遠の福音」、すなわち三天使の使命が書かれている。結論として12節に「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰」とある。つまり、永遠の福音とは、イエスの信仰（欽定訳）によって、すべての戒めに従い守るように導くものであるはずだ。十戒を変更し、第四条の安息日礼拝を日曜日に変える教会とどうして一致し得ようか。

トニー・パーマー：

私は、エリヤの霊をもって世界に出ていき、父の心を子に向けさせ、子の心を父に向けさせる働きに従事するために召されているのです。そして主のために人々を備えるのです。我々にゆだねられている働きは、和解の働きです。

そのような伝道の働きに全エネルギーを注ぐわけではありませんか。これが今日の私の皆さんへの挑戦です。

フランシス法王のビデオメッセージ：要旨

親愛なる兄弟姉妹方、私はイタリア語で話しますが、英語でもイタリア語でも話すつもりはありません。心の言葉で話させていただきます。それがもっと単純でもっと本物だからです。この心の言葉は特別な言葉と文法があります。



皆さんが唯一の主である神を礼拝するために集まっていると聞き、大変嬉しく思います。喜びとノスタルジック(郷愁)を感じさせます。主イエスを賛美して、聖霊を受けられると聞いたからです。残念なことに、私たちは都市の近郊で出会っては別れる家族のように『分裂してしまっ』ています。それは私たちすべての罪です。神以外に罪なき方はおられません。旧約聖書のヨセフのことを考えます。ヨセフの兄弟たちは飢饉が起こった時、糧を得ようと、エジプトに下りました。彼らはお金を食べることはできませんでした。しかし、彼らは糧を得る代わりに、もっと重要なものに出会いました。自分たちの兄弟ヨセフに相まみえたのです。私たちもヨセフのように肩を抱き合って泣かなければなりません。私たちにはそれぞれ豊かな文化、歴史という「お金(通貨)」があります。それぞれに豊かな伝統、遺産があります。しかし私たちはお互いに出会う必要があります。涙が、愛の涙こそが私たちを一致させます。互いを抱擁する憧れがいや増すことを祈り求めましょう。イタリアの作家、マンゾーニは『神が首尾よく奇跡を成し遂げられなければ、私たちは神が奇跡を始められたことさえ、わからないのだ』と単純素朴な人に語らせています。神様が始めた奇跡を私たちが完成させましょう。一致の奇跡はもう始まっています。さあ、兄弟の皆さん、霊的に抱擁を交わしましょう。お願いがあります。私も皆さんを祝福しますが、皆さんもどうか私を祝福してください。私は皆さんの祈りを必要としています。どうか私のために祈ってください。ありがとうございました。

法王のビデオメッセージが終わり、コーブランドが法王の一致への呼びかけに応答する。

「グローリー、グローリー、グローリー、ハレルヤ!」との叫びが会場に響き渡る。そして祈る。「父よ、キリストの体として一致するようにとの

法王様の祈りに答えたいと思います。信仰の一致のためにここに集まりました。父よ、私たちはどう祈ったらいいかわかりません。聖霊を受けることによって祈っています」。

異言の祈りがなされる。……。

トニー・パーマーが会場から呼ばれる。

「トニー、ビデオを持って講壇にきてください」。



法王の一致の呼びかけに答える：

私の親愛なるお方。心からのお言葉を感謝します。今ここに集まっている指導者たちは、何万という信者を代表しています。私たちは、こぞって、あなたの懇願に答えています。私たちはみなあなたの祈りに答えています。イエス・キリストの祈られたことに答えます。「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」とエペソ 4:13 に書かれています。あなたの祝福を感謝します。私たちも心の底からあなたのために祝福を祈ります。

ここにいる者こぞって申し上げます。そして全員で「祝福があるように!」と叫ぶ。

最後にトニー・パーマーがケネス・コーブランドに「どうぞ、バチカンに来て下さい」と言う。「ぜひそうしたいと思います」。



47年前はこんなこと不可能なことだった!

👉 コメント：

「ローマ教会は決して変わらないということがこの教会の自慢の種であることを忘れてはならない。……プロテスタントが自分たちの目的の達成に夢中になっている間に、ローマ教会は、その権力を再び確立して、失われた至上権を回復することをねらっているのである」大争闘下 340。

そのためには、どんな詭弁をも使う。エデンで神の言葉を曲解してだましたことを覚えていよう。主イエスは「人に惑わされないように気をつけなさい」「多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう」（マタイ 24:4, 11）と言われた。

プロテスタント世界がカトリック教の教義のずるい詭弁法によって導かれている間に、不法の奥義がクリスチャンと公言している世界をカトリック教会に集める間に、我々は何をしているだろうか？ 真理を知っている者たちは、聖書の教理に錨をおろしているだろうか？ 我々の武器は「主はこう言われる」「こう書かれている」であろうか？ 我々は錨を幕の内におろしているだろうか？ 我々は信仰に立ち、強められ、定着するために、個人的に福音の真理に根づき基礎を置いているだろうか？ 神の奥義の知識を持っている者として、神が生きたみ言葉を託された者として我々は、責務に忠実で真実であろうか？

※【詭弁（きべん）】とは？①間違っていることを、正しいと思わせるようにしむけた議論。道理にあわない弁論。②《論》[sophism; sophistry] 人をあざむくため故意に行われる、虚偽の推論。→虚偽

1. ルターは信仰による義認ばかりでなく、非聖書的なことを 95 か条として教会のドアに張り付けた：

今も変わらない異教的な、非聖書的教え：

- ①偶像礼拝 ②日曜礼拝 ③靈魂不滅 ④聖母マリア崇拜 ⑤マリアもイエスと共に仲保者
- ⑤滴礼 ⑥天国、地獄、煉獄 ⑦悪人の永遠の責苦 ⑧法王至上権 ⑨法王無謬説 ⑩ 聖画像、⑪ 聖遺物崇拜 等々…

2. フランシス法王と前教皇の発言の矛盾

現法王は、カトリック教会に帰ってきなさいとは言わず、お互いに歩み寄り、一緒になろうと言っている。

ところが、前教皇は何と言ってきたか？ 全くの矛盾を言っているのである。

過去の法王はこぞって明言している：

「普遍的な（カトリック）教会という一つの教会が存在するのであって、それを外にしては誰も救われることはない…」

- 法王ピオ 9 世、Encyclical Promulgated on June 17, 1847#10/
- 法王イノセント、Fourth Lateran Council, 1215.
- 法王ボニフェイス 8 世、the Bull Unam Sanctam, 1302.
- 法王ユージーン 4 世、the Bull Cantate Domino, 1441

現法王フランシスの思わせぶりの態度により、多くの方は、ローマ・カトリック教会は変わったと思込まされている。しかし、「サタンも光の天使に擬装する」とも言われている（Ⅱコリント 11:14）。

「欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕として、サタンはキリストを装う」ことを忘れてはならない（大争闘下 398）。

前教皇ベネディクト 16 世の発言：

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%8B%E3%82%BA%E3%83%A0>

カトリック教会は、プロテスタントとの対話を促進する一方、聖公会を含めたプロテスタントは使徒継承性をもたず、カトリックの聖体を受けることができないと確認するなど、運動の深化のなかで、自教派の独自性を再確認する動きも起こっている。カトリック教会のトップである教皇ベネディクト 16 世は、プロテスタントに対しては「『教会』と呼ぶことはできない」とし、東方正教会に対しては「まったく教会としては欠点がある」とした。<http://www.wnd.com/2007/07/42509/>

ローマ法王ベネディクト 16 世は、非カトリック

のキリスト教共同体は、不完全かまたは、真の教会ではないと述べた。そしてローマ・カトリック教会が救いへの唯一の真の道を提供していると言っている文書を承認することによって、世界中に論争の火をつけた。

「キリストのこの地球上に設立されたただ1つの教会」と文書は言って、カトリック教会の首位を再び断言した。

それによると、プロテスタント諸教会は、使徒継承として言われるものを持っていないので「正式な意味で教会と呼ばれることはできない」と言っている。— すなわち、彼ら（プロテスタント）の司教たちは、最初のイエスの12人の使徒たちにたどりつくことができない。（カトリック教会は、最初の法王はペテロだと主張している）。

3. プロテスタントとカトリックが一致する運動について160年前から預言されていた。その成就を我々はまのあたりで見ているのではないだろうか。:

「サタンは、霊魂不滅と日曜日の神聖化という2つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は心霊術の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す。合衆国の新教徒は、率先して、心霊術と手を結ぶために淵を越えて手を差しのべる。彼らはまた、ローマの権力と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この三重の結合による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利をふみにじるのである。…

現在は自称キリスト者と不敬虔な人たちとの間の区別がほとんどわからない。教会員は世の人々が愛するものを愛し、すぐに彼らと一っしょになるので、サタンはこの人たちを一体として結合させ、すべての人を心霊術の味方に引き入れることによって、自分の立場を強化しようと決意している。カトリック教徒は、奇跡を真の教会の1つの確証として誇っているので、不思議なことを行うこの力に容易にだまされる。また新教徒も、真理のたてを投げ捨ててしまったので、同じように惑わされるであろう。旧教徒、新教徒、それに世俗の人たちもみな同じように、力のない形だけの敬虔を受け入れるであろう。

そして彼らはこの合同の中に、全世界を改心させるための一大運動と、長く待ち望んでいた福千年期の先触れを認めるのである」（大争闘下350）。

「カトリック教は以前ほどプロテスタントと広く隔たっていないという主張が、プロテスタントの諸国において唱えられてきたことには、理由がないではない。そこには変化があったのである。しかしその変化は、法王制の中にあつたのではない。なるほどカトリック教は、今日存在しているプロテスタントによく類似している。それはプロテスタントが、宗教改革者の時代以後、ひどく墮落してしまったからである」（大争闘下329）。

「今日ローマ・カトリック教は、プロテスタントから、過去の時代よりもはるかに好感をもってみられている」（大争闘下318）。

4. プロテスタントの終焉か？

① エキュメニカル運動 宗教大連合

まもなく、黙示録13章の預言が成就する。人類は真つ二つに分けられる。獣とその像とを拝み、その刻印を受ける者と、神のみを礼拝し、生ける神の印を受ける者との。

そして、最後のプロテスタント宗教改革運動が預言されている！

黙示録 18:1-5 大いなる叫び！

「バビロンの罪は暴露される。教会の法令を政権によって強制することの恐るべき結果、心霊術の侵入、法王権のひそかではあるが急速な発展などが、みな暴露される。これらの厳粛な警告によって、人々は動かされる」大争闘下376。

※ダニエル11:44「東と北からの知らせ」が彼（北の王＝ローマ法王教）を驚かせ、怒らせる。

5. 法王教とプロテスタントと心霊術の三重の結合:

次の図に三つ巴のロゴマークが見えますか？



聖書に「また見ると、龍の口から、獣（法王権）の口から、にせ預言者（プロテスタント）の口から、かえるのような三つの汚れた霊が出てきた」と書かれています（黙示録 16:13）。

「心霊術が現代の名ばかりのキリスト教をますますそっくりまねるようになるにつれて、それは人々をだまし、わなにかけるのに、いっそう大きな力を持つようになる」（大争闘下 350）。

「心霊術はたしかに今ではその外形を変え、不都合な点を隠して、キリスト教の装いをとっている。…愛は神の第一のご性質としてくり返し説明されてはいるが、善と悪をほとんど区別しない弱々しい感傷主義に墮している」（大争闘下 312）。

「ローマ教会の抜け目なさど狡猾（こうかつ）さには驚くべきものがある。この教会は、何が起こるかを読みとることができる。…」

また、ローマ教会は決して変わらないということがこの教会の自慢の種であることを忘れてはならない」（大争闘下 339-340）。

「プロテスタント諸教会は世の関心を求めたために、誤った愛がその目を見えなくした」（大争闘下 329）。



News Watch

教皇フランシスが最も偉大な指導者に

米フォーチュン誌が世界の指導者50人を選出

— CHRISTIAN TODAY より —

米フォーチュン誌は20日、「世界で最も偉大な指導者50人」を発表し、1位にローマ教皇フランシスコを選んだ。2位はドイツのアンゲラ・メルケル首相、3位は米自動車会社フォード・モーターのアラン・ムラリー最高経営責任者（CEO）だった。

同誌は、教皇就任から1年経った教皇フランシスコについて、「この短い期間に、教皇フランシスコは、新しい方向性を精力的に示し、教会を驚かせ、非カトリック教徒の人々までも惹き付けた」などと評価した。同誌はまた、バチカン宮殿内の教皇用公邸ではなく、市内のホテルを住居として生活したり、自動車もリムジンなどではなくフォード・フォーカスを使用するなど質素な生活を送っていること、昨年洗足式で少年院に収容されていた女性のイスラム教徒の足を洗ったこと、同性

愛者に対して自身が裁く立場にはないと語ったことなど、これまでの教皇にはなかった点について触れた。

また、この3月に行われた調査では、カトリック教徒の4分の1の人が貧しい人々への寄付を増やしたと回



答したと紹介。これらの人々の77%が、寄付を増やした理由として教皇の影響を挙げたという。

共同通信によると、フォーチュン誌がこの種のリストを発表するのは初めて。一方、この種のランキングでは常連のバラク・オバマ米大統領は入らなかった。また、日本人は選ばれず、日本関係では日産自動車のカルロス・ゴーン社長が23位に選ばれた。<http://www.christiantoday.co.jp/articles/13024/20140321/pope-francis-fortune-the-worlds-50-greatest-leaders.htm>

黙示録 13:3 その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、

13:4 また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。

法王様：「今、あなたが行動する時です」と訴える判事

<http://www.bizpacreview.com/2014/07/27/judge-jeanine-appeals-to-the-pope-for-middle-east-christians-you-have-the-power-to-change-the-world-134620> 2014/07/27

元検索官、判事で現在はテレビキャスターのジニーネ・ピロは、昨夜、中東におけるキリスト教徒は、改宗するか、やめるか、あるいは死ぬかの選択が迫られているのでローマ教皇・フランシスに何らかの行動をとることを求めた。



「中東のキリスト教徒は、信仰のために死の標的にされています。しかし、誰も彼らのために戦っていません。

キリスト教徒が虐殺され、火をつけられた教会と家族が故国から

追い出され、キリスト教徒の大量殺人は進行中です。イスラエルのユダヤ人も同じように攻撃されている中、少なくとも彼らは、ネタニヤフという命を懸けてでも戦うことをいとわないリーダーを持っています。

では、誰がキリスト教徒を守るべきですか？ 誰です



か？ カトリック教会のリーダー、ローマ法王は忠実な者たちを導く人です。……

さて、今ローマ教皇にお願いです。私はキリスト教徒です。私はカトリック教徒です。私はカトリックの学校に行きました。私の子らは洗礼を受けています。そし

て私のお願いは失礼とは思っていません。しかし、フランシス教皇様、あなたは、特に今こそ、キリスト教の群れを保護し始める時です。

中央アメリカから合衆国に移民してきた子供たちは保護され、養われています。中東ではクリスチャンの子らがたくさん殺されているのです！先週、あなたは中東の人たちのために祈られたことは評価しますが、それだけでは十分ではありません！……

かの地では十字架が教会から取り去られ、モスクに変えられているのです！高価な遺物が破壊され売られています。…

あなたの宣言は地球全体に及びます。あなたの宣言は世界全体の何百万という教区で繰り返されています。このような大虐殺を非難して止めるようにという要請は世界中のすべての教会で、教皇様から強い緊急のメッセージとして繰り返されるべきです。

キリスト教のすべての証拠を削除し破壊しようとする残忍なことをみて、あなたは行動しなくてはなりません。

法王教は、第二次世界大戦の間、沈黙していました。あなたは歴史を繰り返すときではありません。

教皇様、法王教は同じように性的虐待スキャンダルにぐずぐずしていました。私は知っています — 私は米国で小児愛者司祭の動きを詳述している最初の大陪審レポートを作成しました。

今や、教皇様がこのキリスト教の大虐殺の前面に出る時です。あなたには信じ難い権力があります。パチカンは、沢山の大使を持ちシークレットサービスの国です。あなたは国々に政治的圧力を与えることができます。あなたは保護区域を提供することができます。あなたは人道的援助のための供給源を持っています。けれどもすべての中で、あなたは最も説教の力、世界を変える力を持っておられます」。

改宗か死か。ISIS がキリスト教徒に最後通告

参照：<http://www.islamandchristianity.org/>



ダニエル 11:40-12:3 は、「南の王（過激派イスラム）」が「北の王」に挑戦するイスラムとキリスト教（法王教）との戦いを描写している。つむじ風のごとく法王教

は世界を制覇。しかし、「東と北の知らせ」=大いなる叫びが彼を驚かし、怒らせる。世界支配をしたと思われるとき、ミカエル=イエス・キリストが立ち上がり、ご自分の民を救出されるために再臨なさる。イスラム教スンニ派の過激組織「イラク・シリア・イスラム国」(ISIS) がイスラム国家の樹立を目指し、他の宗派や宗教の排除を進めている。

「我々はホワイトハウスにアラーの旗を掲げるまで闘う」。

ISIS によるキリスト教徒への迫害、脅迫、虐殺、「胸が潰れるような児童虐待」は、何を意味するのだろうか。これらのキリスト教徒を救うためにローマ教皇が介入するよう要求と叫びが高まっている。オバマは ISIS 軍への空爆を開始。ISIS はそれを受けて、「我々はホワイトハウスでアラーの旗を掲げるであろう」と応答した。これは第三次世界大戦の始まりとなるのであろうか。その可能性も無きにしも非ず。もしそうであるなら、ローマ法王は過激的イスラムに対する攻撃を激励するだけでなく、指揮する主導的役割をするだろう。この対決は第三の最後の「聖戦」になるだろう。ドラッジ・レポート (Drudge Report) (アメリカ合衆国の保守系の政治系ニュースアグリゲーターサイト) は公然とこれを「宗教の戦争」だと読んでいる。「南の王=過激派イスラム」は制覇され、最後に矛先は「神の戒めを守り、イエスのあかしを守る」神の聖徒たちに向けられる。しかし、ミカエルが立ち上がる！今こそダニエル 11、12 章、黙示録の研究をすべき時ではないだろうか。

特報！ エキュメニカル運動の 指導者、事故死

<https://www.youtube.com/watch?v=9kgvdJh7bmc>



キリスト教一致運動の特使として、プロテスタント・カリスマ教役者 (牧師) 集會に法王フランシスから遣わされた、

聖公会司教のトニー・パーマーが 20 日、オートバイ衝突事故で死亡したというニュースが入ってきた。なぜか、詳しいことは分からない。???

DNA (Genome ゲノム) 研究は、ここまで来たか？

— Amalgamation (混交—異なるものが入り混じること)

世界中の研究者は (今まで) 人と動物ゲノムを使って実験してきた。genome ゲノム ((1 組の染色体、つまり、



gene + chromosome) DNA 研究は、ノアの大洪水以前の世界を思い出させる。その頃、まったく奇妙な生きものが作られるまでになっていた。一般的に神の存在を拒絶する科学者らは、人類が、種概念の間に DNA を操って、すり替え、混ぜることによって、今や素晴らしい科学発見の間際にあると考えている。彼らは遺伝情報を操って、どんな新しい種類の生き物でも作ることができると思っている。ある者たちは我々が神々になるか、あるいは生命を作ることができるかとさえ考えている。遺伝情報を混ぜあわせることによって、研究者らは種を超えたような、洪水前の世界をまね始めていると言えよう。

下記のビデオは、近代科学が古代洪水前世界と同じ精神に接近していることを明らかにしている。神が人類を邪悪のために滅ぼさざるを得ないほどになっていた。ぞっとするような人間と動物 DNA の実験である — Transhumanism (トランスヒューマニズム) & ハイブリッド — ショッキングなビデオと映像がある。

「しかし、もし洪水によって人類が滅ぼされなければならなかったもう 1 つの犯罪があったとするなら、それは、人間と獣の混交 (amalgamation) であった。それが人間から神のみ像を損わせ、あらゆるところに混乱をもたらしたのであった。... 人間が命の木の実を食べ続けておれば、限りない命を所有するはずであった。その木の恩恵を受けられなくなったために、人の生命は徐々にすり減るのであった」(霊の賜物 3 巻 p 64)。

「そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起るであろう」(ルカ 17:26)。

罪の除去

靈感の言葉は次のように言っている：「大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ1つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたお方から、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさで完全な喜びをもって、神は愛であると告げる」。

では、お祈りいたしましょう。天の父よ。私たちが後の雨の注ぎのために備えようとするとき、私たちは、ただ、あなたの神性の力によってのみ素晴らしい未来の罪なき生活に備えることができます。願わくは、これからの学びによって、私たちのなすべきこと、神が私たちのためにしようとしておいでになることを理解できますように私たちの霊的な目を開いてください。アーメン。

始めるにあたって愛の力の啓示、十字架が私たち一人一人のために何を可能にしてくれたかという驚くべき言述から始めましょう。イエス様が語っておられます：

「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない」イザヤ書 43:25。

何という驚くべき恵みでしょう！聖書全体にわたってこの良きおとずれが常に語られています。

まず第一に、神は私たちの罪を赦してくださると言っておられます。

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、

ローレンス・ネルソン（元世界総会青年部長）
“Keep The Faith” 2002-12-01 より掲載

神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」ヨハネの第一の手紙 1:9。

第二に、神はその罪を忘れ、思い出されないとされています。私たちの罪を消して心にとめないと言われます。神を賛美したいという思いに駆られませんか？！何という神の慈しみでしょう！神の贖いの計画にはこんなに慰めに満ちたことが含まれているのです。これ以上のうれしいことがあるでしょうか？

いつ罪は除去されるのか？

皆さんのある方々は、私たちが罪を告白した、その時に罪は除去されると聞かされたことがあるのではないのでしょうか。しかし、聖書はそんなことを教えてはいません。次のような質問に対する答えを見つけないと思いませんか。①. いつ罪は除去されるのでしょうか？ ②. なぜ罪は除去される必要があるのでしょうか？ これらの偉大な真理を知るときっと興奮するでしょう。

罪の記録

まず第一に、除去されるべき罪はどこに記録されるのかということを見つけなければなりません。聖書によると、それらは異なった二つの場所に記録されています。第一の場所は、私たちの心です。犯す罪はその人の頭脳に記録されます。さらに驚くべきことに、それは天の書物にも記録されるのです。

心に記録される罪

では、罪はどのように心に記されるかを学んでみましょう。エレミヤ書 17:1 に、非常に驚くべき言述

を見ます。この言葉は、ユダ、すなわち教会の信者について言われていることです。この言葉に注目してください。

「ユダの罪は、鉄の筆、金剛石のとがりをもってしるされ、彼らの心の碑と、祭壇の角に彫りつけられている」。「ユダの罪は心の板に、祭壇の角に鉄のペンで書きつけられダイヤモンドのたがねで刻み込まれている」【新共同訳】。

非常にはっきり言っていますね。

ペンで何かを書くとき、それがはっきり書けない場合、その言葉がはっきり読めるようにだんだん強く押して書きますね。しかし、神は鉄の筆(ペン-新共同訳)を使うというのです。どれほどの圧か想像できますか？神様にとってそれは問題ありません。しかもペン先はダイヤモンドであるのです。それは神が作られた最も固いものであることは誰でも知っています。そのような鋭利さをもって罪は心の中に刻み込まれるのです。これほどはっきりしていることがあり得ますか。神はそれほど正確に私たちの罪を私たちの心に記録されるのです。疑問の余地はありません。

そのことは今日のコンピュータ時代に住む私たちにもっと理解しやすいと思います。コンピュータのことを知ると、私たちの頭脳に善と悪がどのように記録されるかをもっとよく理解することができます。コンピュータには、何億ビットという情報をシリコンというチップに入れることができます。それを扱っている人がその情報を欲しいと思えば、一瞬の内に印刷したり、スクリーンに出して読むことができます。コンピュータの容量の大きさによっては限りなくデータを扱うことができます。これらを消したり、除去したりしなければ、それはいつまでも残っており、コンピュータ操者によっていつでも再現することができます。

私が言うまでもなく、最高のコンピュータは、私たちの頭脳にあるのです。普通の知性ならば、生涯のすべての表現も経験も記録することができます。私たちが見たり、聞いたり、触ったり、味わったりすること、また、驚くべきことに私たちの語るすべての言葉も記録されます。さらに心に入ってくるすべての思いも鉄のペンを持って記録されるのです。それらはダイヤモンドの鋭利なペン先で刻み込まれ、頭脳の細胞に永遠に刻まれ残ります。

ある人たちは、なぜ、その記録をコンピュータのように、いつも思い出すことができないのかと不思議がっています。それは、罪が私たちのコンピュータを弱くしてしまったからです。だからと言ってそれは、私たちの心の最も奥深いところに記され損なわれているというわけではありません。

このことを考えてみてください。ある人は聞いたことを何でも再現することができる人がいます。そういう人はまれで非常に賜物を持っている人たちです。このような人は、頭脳に記録されたことを再現できるのです。このような人についての話があります。ある音楽家から聞いたことですが、ある盲人がそのようなことができると主張したというのです。音楽家は疑いました。そんなことが可能かテストしようと思いました。音楽家はこの盲人にとって非常に難しいメロディーをわざと弾きました。この盲人が以前に聞いたことのない曲でした。この曲のあるところに意図的に間違った音を加えて弾きました。あるところは、音楽家自身のものを付け加えたりしました。この盲人が以前に一度も聞いたことがないようにしたのです。

この盲人は、注意深くそれを聞いて、それからピアノに向かいました。すると正確に音楽家が弾いたとおりに再現しました。わざと間違え、誤って弾いたところも。盲人は聞かされたことを正確に再現して演奏したのです。彼は人間の頭脳というコンピュータに記録されたことを再現できたのです。さらに、いつでもそれ以来、その世界的な音楽家が演奏することを正確に演奏することができたのです。

この事実は、私たちの頭脳について何かを教えています。神は私たちの罪について何とっておられるでしょう。もう一度エレミヤ 17: 1 から読んでみましょう：17:1「ユダの罪は心の板に、祭壇の角に鉄のペンで書きつけられダイヤモンドのたがねで刻み込まれて」いる。私は聖句の後の部分を読んでいないことにお気づきになったと思います。靈感の言葉は、心の碑に記されていると言っているだけでなく、「祭壇の角に鉄のペンで書きつけられ」ているとも言っています。

天に記録される罪

さて、このことは、私たちの記録されている二番目の場所、聖所に心向けさせます。私たちの罪は、

心の中に刻み込まれるばかりでなく、天の記録にも記録されるのです。

このことについて、最も明瞭に描写している言葉を大争闘下 213 頁からお読みします。私を震えさせる言述です。

「すべての人の行為は、神の前で調査され、忠実であったか不忠実であったかが記録されている。天の書物の中の各自の名の向かい側には、恐るべき正確さで、すべての悪い言葉、利己的な行為、義務の怠慢、隠れた罪、巧妙な偽善行為などが記入されている。天からの警告や譴責（けんせき）をなござりにしたこと、時間を浪費し、機会を活用しなかったこと、善きにつけ悪しきにつけ、及ぼした感化とその広範囲にわたる結果などがみな、記録天使によって記録されている」。

このことを真剣に考えるとき、私は身震います。だからこのようなことは私の記憶から早く消し去ってもらいたい天の記録からも永久に消し去ってもらいたいと切望するのです。さもなければ天は私にとって楽しいところとはならないでしょう。このことをよく考えて頂きたいのです。

罪の除去はいつ？

しかし、このことはいつ起こるのでしょうか？神はその答えを使徒行伝 3:19-20 に与えておられます。

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである」。

ここでこの聖句をよく消化するために立ち止まって三つの偉大な事実を発見したいと思います。

1. 悔い改め-回心は天国に入るためには必須である。
2. もし、悔い改め-回心という必須条件を満たすなら、あなたの罪は除去される。
3. そのことは正確にいつ起こるかを告げている。「主のみ前から慰めの時が来る時」です。それは後の雨のことです。

では、この後の雨はいつ来るかということも正確に定めることができます。

「福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあたって秋の雨（前の雨）となって成就した預言は、その終局において、春の雨（後の雨）となって再び成就するのである。これが、使徒ペテロが待望した『慰め〔原文では refreshing（活気づけ、回復の意）〕の時』である。彼は次のように言った。『だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために〔調査審判の時に 1888 版大争闘〕、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、……イエスを、神がつかわして下さるためである』（使徒行伝 3:19、20）」（大争闘下 383）。

従って慰めと後の雨は同じことであります。このことは、福音宣伝が閉じられる時に来るということがわかります。なぜなら、ペテロは次の聖句に「神がイエス・キリストをつかわして下さる」と言っているからです。従って罪の除去にキリストの再臨が続くのです。

ここで私たちは、今日罪が除去されることはあり得ない理由がお分かりでしょう。次の大争闘下 218 頁の引用文を注意深く見てください。

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。しかし、使徒ペテロは、はっきりと、信者の罪は、『主のみ前から慰め〔原文では refreshing（活気づけ、回復の意）〕の時』くる時にぬぐい去られる。そして、『キリストなるイエスを、神がつかわして下さる』と言っている（使徒行伝 3:19 参照、同 20）。調査審判が終わると、キリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行いにしたがってお与えになるのである」。

これは、調査審判が終了すると、キリストは、それぞれのしわざに応じて報いを与えるために来られることを言っています。

ここで立ち止まって、見つけたことをまとめてみましょう。私たちの罪は調査審判が終わるまでには、除去されなければなりません。それは、後の雨/慰めの間中（特定の期間）に起こるのです。ですから、

罪の除去は、近い未来のことであると確信できます。

続けて大争闘下 383 頁を読みます。

「神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からの使命を伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行われ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。サタンもまた、偽りの不思議を行い、人々の前で天から火を降らすことさえする（黙示録 13:13 参照）。こうして、地上の住民は、立場を明らかにしなければならなくなる」。

「第三天使の使命が閉じられると、もはや地の罪深い住民のための憐れみの嘆願はなされない。神の民はその働きを成し遂げたのである（現在完了）。彼らは『後の雨』と『主のみ前から』来る『慰め』を受けて（現在完了）、自分たちの前にある試みの時に対する準備ができた。天使たちは、天をあちらこちらへと急ぎまわっている。1人の天使が地から戻ってきて、自分の働きが終わったことを告げる。すなわち、最後の試みが世界に臨み（現在完了）、神の戒めに忠実であることを示した者はみな、『生ける神の印』を受けたのである（現在完了）。その時イエスは天の聖所でのとりにしをやめられる。イエスはご自分の手をあげて、大声で『事はすでに成った』と仰せになる。そして、イエスが『不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ』と厳粛に宣言されると、天使の全軍はその冠をぬぐ（黙示録 22:11）。どの人の判決も、生か死かに決まった（現在完了）。キリストはご自分の民のために贖いをなさり（現在完了）、彼らの罪を消し去られた（現在完了）」（大争闘下 385）。

この情報は後の雨を受ける備えを何ものにも優先しなければならないことに私たちをかり立てるべきです。私たちは後の雨を受けるために品性のすべての欠点を正さなければなりません。初代文集 149 頁にこう書かれています：

「すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、『慰め』にあずかることができないうのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに

立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしましょう」。

このことをもっと明瞭にするために教会への証 5 巻の 214 頁から引用します。

「私たちの品性に一つでも汚点やしみがある間は、誰一人として神の印を受けることはないであろう。私たちの品性の欠陥を矯正し、すべての汚れから魂の宮を清めるのは私たちに任されているのである」。

お分かりですか。すべての汚れ、それは罪をも含んでいますね。

天の聖所と心の聖所

では、天の聖所で起こることと私たちの心の中で起きることの関係をもう少し考えてみましょう。古代イスラエルにおいて、贖いの日という特別な日に罪が除去されたのは、その前にゆるされた罪でありました。これらの罪は悔い改め、告白され、小羊に移された罪で、罪人によって殺された小羊の血は、祭司によって聖所に移された罪でした。その罪は、香壇の角に注がれました。

覚えていますか。エレミヤが言った言葉を？「あなたの祭壇の角に」という言葉を？その香壇は至聖所の前の垂れ幕の前にありました。こうして罪人の頭脳に記された、ゆるされた罪は天の聖所にも記録されているのです。大争闘下 136 頁に次のように書いてあります：

「1800年にわたって、聖所の第1の部屋において、この務めが続けられた。キリストの血は、悔い改めた信者のために嘆願し、彼らがゆるされ天父に受け入れられるようにしてきたが、しかし彼らの罪は、まだ記録の書に残っていた。型としての儀式において、1年の終わりに贖いの働きがあったように、人類の贖いのためのキリストの働きが終わる前に、聖所から罪を取り除く贖いの働きが行われるのである。……」

よく聞いてください。続けて読みます。

「古代において、民の罪が、信仰によって罪祭の上におかれ、そしてその血によって、象徴的に

地上の聖所に移されたように、新しい契約においては、悔い改めた者の罪は、信仰によってキリストの上におかれ、そして実際に天の聖所に移されるのである」。

だから、これらの罪が除去されるために今の準備が大変重要となるのです。すべての罪が告白され、捨てられ、ゆるされた罪がイエスに移され、そして聖所に移されるのです。そして最後の贖いの日に大祭司キリストは、それらの罪を除去なさるのです。パウロはテモテへの第一の手紙 5:24 にこう言っています。

「ある人の罪は明白であって、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪は、あとになってわかって来る」。

ここでまた、重要な、おそらくあなたの人生で考えたこともない質問を取り上げてみましょう。あなたのゆるされた罪が無効にされ、破棄されるということがあり得るでしょうか？そんなこと考えたことがありますか？罪をゆるしてもらったのに、悪の道に変えたために、将来においてそれが破棄されるということがあり得るでしょうか？

「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである。そのように象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った」(あけぼの上 422)。

あなたは言うかもしれない「一体神がそのようなことをなさるだろうか？罪を悔い改めて告白したのに、それを消し去ってくださらないの？」不忠実な管理者のたとえ話を覚えていますか？イエスはたとえ話を語られました。ある王がその僕たちを決算に集めました。日本語では明瞭でないので、実物教訓から引用します。

「主は、政府の事務をつかさどっていた役人に対して、王がどんな処置を取ったかについて、1つのたとえをお話しになった。役人のうちには、国家の巨額な公金を横領していたものがあった。王が、資金をゆだねていたものの会計調査を行った時、王に対して1万タラントという巨額の負債を負った者のあることが判った。その男は、王の前につれて来られた。この男には支払う金がなかった。当時の習慣によって、王は

彼に、所有物を全部売り払って負債をつぐなえと命じた。しかし、驚いた男は王の足下にひれふし、王に嘆願して言った。『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』。僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。その僕が出て行くと、100デナリを貸しているひとりの仲間に出会い、彼をつかまえ、首をしめて『借金を返せ』と言った。そこでこの仲間はひれ伏し、『どうか待ってくれ。返すから』と言って頼んだ。しかし承知せずに、その人をひっぱって行って、借金を返すまで獄に入れた。その人の仲間たちは、この様子を見て、非常に心をいため、行ってそのことをこのらず主人に話した。そこでこの主人は彼を呼びつけて言った、『悪い僕、わたしに願ったからこそ、あの負債を全部ゆるしてやったのだ。わたしがあわれんでやったように、あの仲間をあわれんでやるべきではなかったか』。そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした」(キリストの実物教訓 219-220)。

1万タラントの負債は今日では何百万という負債でしょう。これほどの負債をゆるしてもらったのに、100デナリは、100日分の労働賃金に相当しました。

僕は王(主人)に負債をゆるしてもらったのではなかったですか？確かに！しかし、彼の悪い行為は、王(主人)の赦しを無効にしたのです。「ネルソン先生、そのような適用は行き過ぎていませんか？そんな適用の仕方をしてはなりませんよ」と言われるでしょう。イエスは何と言っておいでになるか読んでみましょう：

「あなたがためいめいも、もし心から兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう」(マタイ 18:35)。

ここで与える教訓ははっきりしています。もし、私たちがゆるされているのに、私たちの悪い行為は、以前にゆるされたことが無効にされるのです。「赦された」という驚くべき言葉は、天の記録から消し去られ、決して許されないものとして記録されるのです。

「神がそんなことをなさるとは到底考えられない」と言われる方もいるかもしれませんが。実物教訓 227頁に主の僕はこう言っています：

「彼が以前に許しを受けたことは事実である。し

かし彼の無慈悲な心は、彼が今、神が愛の中に許しをお与えになったことを拒んでいることを示している。彼は神から自分を引きはなし、許しを受ける前となんら変わりがない。彼は自分の悔い改めを否定した。そして彼の罪は、あたかも彼が悔い改めなかったかのように彼の上に置かれているのである」。

ここであなたは神の知恵をごらんになれるでしょう。私たちが罪のゆるしを求めたその瞬間に、罪が除去されるわけではありません。恩恵の期間が閉ざされない間に、もし、私たちが不忠実であることが発覚したら、私たちのゆるされていたはずの罪は除去されないのです。今日もアメリカの法律でそういうことがなされますね。たとえば、ある犯罪者が20年の刑に処せられたとします。しかし、彼が5、6年牢獄で正しく生きていたら、猶予が与えられます。しかし、その人が約束をやぶったなら、どうでしょう？ 猶予は取り消され、今度は更なる刑のために牢獄に戻されるでしょう。

なぜ、神が天の記録の書から私たちの罪を除去されないか理由がお分かりでしょう。裁きが終わるまで、私たちの悔い改めと回心が真実なものかを確かめるまで待たれるのです。そうしてはじめて私たちの罪が除去され、名前が命の書に残されるのです。そして命の冠が与えられるのです。

さて、この説教の最も感動的なところに来ました。それは、天の記録、また私たちの心の記録から最後の贖いにおいてすべての罪の記録から消される時がまもなくやってきます。過去のすべての罪が、天においても私たちの心からも再び思い出さないほどに除去され、赦しという深海に消え去られるのです。ちょうどコンピュータのあるキーを押すとすべての記録されたものが一瞬のうちに消し去られるように、私たちの愛する神も、私たちの罪を除去されるのです。

数年前、ある女性がこんな話を聞かせてくれました。学位論文を書いているとき、あまり疲れて眠り込んだとき、誤ってあるキーを押してしまって、記録していたすべてのデータが消されてしまったのです。その悔しさは大変なものだったというのです。神も私たちが再び思い出せないほど罪を除去してくださるのです。

大争闘下 393 にこう書いてあります：

「そのように、悩みの時においても、神の民は、恐怖と苦悩にさいなまれている時、まだ告白していない罪を思い出すならば、彼らは圧倒されてしまうことであろう。絶望が彼らの信仰を断ち切り、彼らは神に救いを求める確信が持てなくなることであろう。しかし、彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じてはいるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すことができない」。

私も今日消してもらいたい罪があります。しかし、それは、裁きにおいて、かかわった様々な悪から解放され、決して思い出さずに天国を楽しむことができるのです。なんと素晴らしいことでしょう。主を賛美しましょう。神が何かをなさるときは、正しくなさいます。未来に目を向けるとき私たちは何という喜びに満たされることでしょう。

あけぼの上 423 をお読みします：

「真に悔い改めた者の罪が、ついに贖われて、天の記録から消されて、もはや思い出すことも心に浮かぶこともなくなるように、象徴では罪は荒野に追いやられ、会衆から永遠に切り離された」。

親愛なる皆さん、天国はなんと素晴らしいところでしょう。この世界でしてしまっただけの悪、決して、一つも思い出せないのです。だから、私はその日が待ち遠しいのです。なんと素晴らしい救い主でしょう！

だから、エレミヤ 50：20 にこう書いてあるのです：

「主は言われる、その日その時には、イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない。それはわたしが残しておく人々を、ゆるすからである」。

なぜでしょうか？ 罪が除去されているからです。イザヤ 4:3 は明言しています：

「シオンに残る者、エルサレムにとどまる者、すべてエルサレムにあって、生命の書にしるされた者は聖なる者となえられる」。

なぜでしょう？ もはや個人には一つの罪のきざしもないからです。天の聖所と私たちの心から罪が除去されたからです。これはみなカルバリーのおかげ

です。イエスの犠牲によって可能としてくださった神に感謝しましょう。天においてただ一つ思い出させるのは、カルバリーでサタンが救い主の命をとろうとしたことの証拠として残っている御手の傷跡です。

今は準備の時

今こそ預言者ヨエルと共に特別に心を探るときです：

「あなたがたはシオンでラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。国の民はみな、ふるいわななけ。主の日が来るからである。それは近い…。今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。あなたがたは衣服ではなく、心を裂け。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされるからである」（ヨエル 2:1, 12, 13）。

私たちは、天における贖いの最終局面を迎えようとしています。すべての罪が除去され、印されて「救われた」と宣言されるか、それともゆるされない罪を持ったままで救われないかのどちらかなのです。今日私たちの教会において不信と反逆のゆえに、ある者たちは、古代イスラエルの足跡に従って最後の贖いのために準備をしていないということがあり得るのでしょうか？神は何を期待すべきかを告げられました。私たちのある者たちは、この青写真をみて、心の中に不信を抱いてバビロンの教会のようになりたいと思っていないのでしょうか？私たちも世俗的なロック音楽、服装をのぞみ、周りの諸教会が教えているように罪のうちにあってもどうにか神が私たちを救ってくださるようにと望んでいないのでしょうか？こうして多くの者は、「主はこう言われる」という青写真から離れようとしているのです。しかし、このような者たちは、神が「わたしから離れよ、わたしはあなたを知らない」と言われるのを聞くでしょう。

あなたはこのような説教は聞きたくないかもしれませんが、私にはほかの選択がありません。私は今こそ、私たちの生活のすべての罪、性癖に勝利するときなのでラッパを吹かなければならないのです。

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむ時
地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲

保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行われ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない」（大争闘下 140, 141）。

お聞きください。これは私の言葉ではありません。主の僕の靈感の言葉です：

「私たちは長い間眠ってきました。このまま眠り続けて、そしてついには失われてしまうのでしょうか？罪を犯しては悔い改め、罪を犯しては悔い改め、キリストが来られるまで、そのまま続けていいのでしょうか？神が助けてくださるように」（レビュー 1891年4月21）。

罪を犯しては悔い改めという教えを今日の私たちの教会にサタンが持ち込もうとしています。不忠実な羊飼いによって説教されているように、イエスが来られるまで罪を犯すというなら、あなたは失われてしまいます。

しかし、主はほむべきかな。今日神は勝利する力を与えておいでになります。それを受け取りますか？私は長い間ラッパを吹き続けてきました。神は私たちに罪に対する勝利をあたえて、それが天の記録の書と心から永久に除去され、私たちの名が命の書に保留されるのを望んでおられます。その時、そのときにのみ、「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」と宣言されます（マタイ 25:34）。

お祈りいたしましょう。愛する天の父よ、どうぞ私たちの手を固く掴み離さないでください。あなたの御霊によって、イエスにお目にかかるためにすべての罪に完全に勝利できるようにしてください。今日このような経験を与えてください。尊いイエスのみ名によってお願いいたします。アーメン。

愛なる神の 罪の処理のしかた



金城 重博

まえがき：初めての方向のために

まえがきが長くなるが、終末事件について知ることとは重要なのでゆるしていただきたい。アンカー 52号の「生ける者のさばきと後の雨の関係」の記事で混乱した方々もいるようなので、再度、取り上げて一緒に考えてみたいと思う。あきらめずに混乱から光を見出そう。

こういう記事があった。

「NNNドキュメント『除染廃棄物は何処へ中間貯蔵施設に揺れる福島』除染そのものがないと思います。除染というのは『汚れを除く』と書くわけですが、汚れと私たちが呼んでいる正体は放射性物質です。これを消し去ることはできないのです」。

この宇宙で最も大きな問題は、愛なる神は罪人を滅ぼさずに、罪という放射線性廃棄物をどのように処理なさるかということである。我々は人間のさまざまな問題で悩まされているが、あらゆる問題の根源は罪という問題である。罪がゆるされるということから来る平安、幸福を大なり小なりだれでも経験している。

しかし、神の抱えている悩みを考えたことがあるだろうか。それは先に述べたように、神は愛であるが故に、人間を滅ぼしたくない、しかし、罪は徹底的に処理しなければならない。義であり、憐れみ深い宇宙の創造主は、その問題でずっとサタンから挑戦されてきた。

神は全能であられるから、その問題の解決策を持っておいでになる。

それは、「贖罪の犠牲」と「全能の仲保の働き」によって成し遂げられる。

イスラエルの聖所と儀式には福音がぎっしり詰まっている。

1. 罪のゆるし

レビ記 4 章～6 章までには、日毎の奉仕において、罪人はいけにえを持ってきて悔い改めて罪をいけにえに告白した。その罪はいけにえに移され、殺され、祭壇で焼かれ、その罪は聖所に移され、聖所と至聖所を隔てている「とばり＝垂れ幕」に 7 たび血が注がれた。「こうして、祭司は彼らのためにあがないをするならば、彼らはゆるされる」と 8 回も繰り返されて言われている。

2. 罪の除去

しかし、レビ記 16 章は、年毎の奉仕といって年に一度大祭司が至聖所に入って、最後のあがないをした。その日、またいけにえの血が流され、贖罪所の上に注がれた。

その時、聖所に移された罪は、聖所からアザゼルに移され、罪人の罪が除去された。

レビ記 16:30 「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、

あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである」。これが罪の除去である。

それは、予型であった。それは、すべて、儀式の本体である、イエス・キリストによってなされる罪の処理を表していた。

福音の実体ではどうなのだろうか？

1. 罪のゆるし

悔い改めと信仰をもってイエス・キリストの下に来る時、罪ゆるされたと宣言される。

使徒行伝 2:38 「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう」。

イザ 55:6-7 「あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨て、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる」。

罪のゆるしは、「赦された」と宣言されたときに瞬時に与えられる。良心のとがめはなくなり、天来の平安に満たされる。その罪は、天の聖所に移される。罪責から解放される。

しかし、罪は天の記録にも心の碑にも記録され残る(エレミヤ 17:1)。

エゼキエル 36:31 「その時あなたがたは自身の悪しきおこないと、良からぬわざとを覚えて、その罪と、その憎むべきことのために、みずから恨む」。キリストの実物教訓、各時代の希望 中巻 p8、教役者への証 p447 参照。

2. 罪の記録の除去は、いつなされるか？

すでにネルソン先生の記事に見たが、混乱しないために整理したい。

聖所の予型によると、至聖所における最後の贖いの時である。この最後の贖いの日に「もろもろの罪から清められる」のである。十字架で血を流された主は、天の聖所に入り仲保の働きを開始された。いつでも我々の罪をゆるし、清め、勝利を与えるためである(ヘブル 9:22、I テモテ 2:5 参照)。

- しかし、罪の除去はいつなされるのであろうか？
- 「調査審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られない」。

死んだ義人の裁きは、1844年から始まったことを SDA はよく知っている。生きている義人のさばきは日曜遵守令が強要される時から始まる。「神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め」ておられ、それが1844年から始まった(ダニエル 7:9,10、8:14; 使徒 17:31)。

では、生きている我々は、罪の除去をいつ経験するのであろうか。

黙示録 13:8 「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう(欽定訳)」。

靈感の言葉に次のようなことが書かれている：

6T 130 「今や、まもなく生ける者のさばきという大いなる働きが始まろうとしている時に (is about to begin)、我々の清められないままの野心が心を占領し、この危機に備える必要な教育を怠るように導かれていいだろうか？ どの場合においても、獣の刻印、あるいはその像を受ける (shall 未来)か、それとも神の印を受けるか (shall 未来) という一大決心がなされなければならない (is to be made 未来)」(1900年に書かれた)。

TM 234, 235。「両方とも収穫まで育つままにせよ。その時、主が毒麦を集めて焼き、また麦を天の倉に集めるためにご自分の刈り取る者を送られる。さばきの時は最も厳粛な時である。その時に主はご自分の民を毒麦から集められる。同じ家族の者が分かつた。義人には印が与えられるであろう。関わっていた者(悪人たちは)

神からの永遠の分離の印が押されるであろう」。

る時、小羊の命の書に永遠に名前が留められる。

生ける者のさばきの時に罪の除去と後の雨

使徒行伝 3:19 「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。3:20 それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである」。

よく、注意して頂きたい：罪の除去と後の雨の関係に。

ペテロは終末事件を非常に明瞭に述べている：

1. 悔い改めて本心に立ちかえりなさい—これは今我々のなすべき働きである。古代イスラエルが聖所の周りに集まって魂を悩ましたように、神の民は今、実体のあがないの日に深く心を探る時である。
2. 自分の罪をぬぐい去っていただくため=罪の除去のために [In the Investigative Judgment=調査審判の時に]、—これは、まだ近い未来のことである。* [] は E.G. ホワイトの言葉。(大争闘 1888 年版)
3. 主のみ前から慰め=後の雨のために。「時」と訳されているのは、他の訳によると「~のために」との意味もある。つまり、罪の除去は、後の雨の注ぎのためである。
4. イエス・キリストの再臨
 - ① 再臨の前に、罪の除去と後の雨の注ぎがある。
 - ② 罪の除去と後の雨の注ぎは、生ける者の裁きのときに起こる。

「後の雨と大いなる叫び」は切り離せない出来事であることを読者は理解できると信じる。なぜなら、靈感の書に明確にそう書いてあるからである。

初代文集 440、大争闘下 381

- 天でイエスが記録の書から聖徒たちの罪を消し去

- 地上においては、聖霊が信者の心の聖所から罪を除去し、聖霊—後の雨で満たすのである。

では、罪の除去が先か後の雨が先かという問題でアンカー 52 号の記事を批評し、間違いだとした方がいて読者に混乱をもたらしているが、「時に」「~のために」というのは何を意味するか。

後の雨が罪の除去の時と罪の除去の後にという意味を説明したい。二つの引用文で聖霊の働きを理解すると、(私にとっては)非常に明瞭である。

「世のあがない主によって達成されたことに効果を与えるのはみたまである」(希望下 157)。

「御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである」(ロマ 8:26)。

罪の除去も、後の雨も、神の印も、みな聖霊の働きである!

しかし、どちらが先行するかということだが、我々 SDA の先駆者たちは、ユライヤ・スミスも、O. R. L. クロージャーも、E. J. ワゴナーも、A. T. ジョーンズもみな、罪の除去が後の雨に先行すると言っている。

信仰と行いの関係もそうである。行いが信仰に伴うように、後の雨が罪の除去に伴うのである(ヤコブ 2:14,17)。

後の雨の時と表現したのは、後の雨が罪を除去し、神の律法を心に印するからである(エペソ 1:13,4:30)。

例を挙げると、ボトルに新鮮な水を入れるときにまず、その器を水で清めてからその同じ水を満たすのである。後の雨の聖霊は、罪を除去して同じ後の雨で我々を満たすのである。

イエスは言われた：

「善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう」（ヨハネ 5:29）。

イエスは、善人の復活と悪人の復活は同じ時に起こると、言っておられるのだろうか。否、否である。善人の裁きと悪人の裁きは、異なる時に起こることを SDA はよく知っているはずである。

★ 私を批評した方は、第三天使の使命が終了し、恩恵期間が終了し、アザゼルに罪を負わせるときに「罪の除去がなされるのであって、それ以前に罪の除去は不可能である」と言っている。

「罪の除去、あるいは罪が消される」には三つの局面があることを覚えていなければならない。

- ① 個人個人の心から罪が除去されること—大祭司イエスが至聖所におられる間に。
- ② 神の民の罪がアザゼルに負わせられ、移されること—恩恵期間が終了する時。
- ③ 宇宙から罪が除去されること—千年期の後。

ある人は大争闘下 137 を引用して、結論を「罪が除去される時は後の雨が降る時ではなく、天の至聖所におけるキリストの務めの終わりに、それらの罪をサタンの上におかれる時と同じ時であることが分かる」「最後の贖いは、罪をサタンの上にご告白することによって最終的に閉じ、罪は永遠に神の民から切り放される。それ以前に罪が除去されることは不可能である」と言っている。

「大祭司は、罪祭の血によって、聖所から罪を除去した時に、それをアザゼルのやぎの上においた。キリストが、彼の務めの最後に、ご自身の血によって、天の聖所からご自分の民の罪を除去される時、彼はそれをサタンの上におかれる」。

しかし、続きを見て頂きたい。

「サタンは、審判の執行において、最終的な刑罰を負わねばならない。アザゼルのやぎは、人里離れた地へと追い払われ、イスラエルの宿営には 2 度と帰って来なかった。そのように、サタンは、神と神の民の前から永遠に追放される。

そして、罪と罪人の最終的な滅亡の時に消し去られるのである」。

最終的に罪が除去されるのは千年期の後とも表現している：大争闘下 218

「祭司が聖所から罪を除去した時に、アザゼルの山羊の上にそれを告白したように、キリストは、罪の創始者であり煽（せん）動者であるサタンの上に、これらの罪をすべて置かれるのである。アザゼルの山羊は、イスラエルの罪を負って、「人里離れた地」に送られた（レビ 16：22）。そのように、サタンは、自分が神の民に犯させたすべての罪を背負って、1000年の間、この地上に監禁される。地上はその時、荒れ果てて住む者もいない。そして彼は、ついに、すべての悪人を滅ぼす火の中で、罪の刑罰を余さず受ける。こうして、罪は最終的に除去され、進んで悪を捨て去った人々がすべて救われて、贖いの大計画は完成するのである」。

宇宙から罪が除去されるのはいつか。千年期の後である。福島原発事故による放射能は他府県に移されたとしても、まだ残っているように、移された場所からそれが除去されなければ、それは残っている。

「罪の除去」の三つの異なった局面を混同してはならない。

神の民の罪が個人的に除去され、生ける神の印を受けるに先立って、どんな経験をするだろうか？

● 国と指導者下 193 – 194 頁を注意深く読んでほしい：

「ヨシュアとみ使いに関するゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、最後の場面における神の民の経験に、特別に当てはまる。その時、残りの教会は大きな試練と苦悩に陥る。神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持っている者に対して、龍とその軍勢は激しい怒りを発する。サタンは世界を自分の家来だと思っている。彼は多くの自称キリスト者たちさえ支配してしまった。しかしここに、小さい群れが彼の主権に抵抗しているのである。もしサタンが、彼らを地上から一掃することができるならば、彼の勝利

は完璧（かんぺき）となる。サタンは異教諸国を動かしてイスラエルを滅ぼそうとしたように、近い将来、地上の邪悪な国々を扇動して、神の民を滅ぼそうとするのである。人々は神の律法に背いて、人間の布告に服従するように要求されるのである。

神に忠実に服従する人々は、脅かされ、攻撃され、追放される。彼らは、『両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られ』、殺されるであろう（ルカ 21：16）。神の憐れみだけが、彼らの唯一の希望である。祈りが彼らの唯一の防御である。ヨシュアがみ使いの前で嘆願したように、残りの教会は、心へりくだり揺るがぬ信仰をいだいて、彼らの助け主イエスによって、赦しと救出を嘆願するのである。彼らは自分たちの生活の罪深さを、十分認めている。彼らは自分たちの弱さと無価値さを知っている。そして、今にも絶望するばかりである。

誘惑者サタンは、ヨシュアのそばに立ったように、彼らのそばに立って告発する。彼は、彼らの汚れた衣、彼らの品性の欠陥を指摘する。彼は、彼らの弱さと愚かさ、忘恩と罪、彼らがキリストと似ておらず、贖い主の栄えを汚したことを示す。彼は、彼らの状態は絶望的で、彼らの罪のしみは洗い去ることができないと思わせて、恐怖に陥れようとする。…

神の民が神の前で心を悩まし、心が純潔になることを嘆願する時に、『彼の汚れた衣を脱がせなさい』という命令が出される。そして、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』という励ましの言葉が語られる（ゼカリヤ 3：4）。キリストの義というしみのない衣が、試練と誘惑に耐えた忠実な神の民に着せられる。

さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に2度と汚されることはないのである。彼らの名は小羊の命の書に書き留められて、各時代の忠実な者の中に加えられるのである。彼らは、欺瞞者の策略に抵抗した。彼らは龍がほえても、忠誠を失わなかった。今や彼らは、誘惑者の計略から、永遠に安全なものとなった。彼らの罪は、罪の創始者の上に移された。『清い帽子』が彼らの頭にかぶせられた。

サタンが告発をしていたときに、目には見えな

いが、聖天使たちがあちこち行きめぐって、忠実な人々に生ける神の印を押していた（聖霊による証印=後の雨）。この人々は、その額に父なる神の名を記されて、小羊とともにシオンの山に立つのである。彼らはみ座の前で新しい歌を歌うが、それは地上から贖われた14万4千人のほかは、だれも学ぶことができない。『彼らは、……小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった』（黙示録 14：4、5）。

ここでみ使いの言葉が完全に成就する。『大祭司ヨシュアよ、あなたも、あなたの前にすわっている同僚たちも聞きなさい。彼らはよいしるしとなるべき人々だからである。見よ、わたしはわたしのしもべなる枝を生じさせよう』（ゼカリヤ 3：8）。キリストは彼の民の贖い主、救い主としてあらわされる。残りの民の旅路の涙と屈辱が、神と小羊の前で喜びと誉れに変わる時に、人々は彼らを見て、まことに驚き怪しむのである。『その日、主の枝は麗しく栄え、地の産物はイスラエルの生き残った者の誇、また光栄となる。……シオンに残る者、エルサレムにとどまる者、すべてエルサレムにあって、生命の書にしろされた者は聖なる者となえられる』（イザヤ 4：2-4）。

上記の経験はいつのことだろうか？

● 同じような描写が大争闘下 216 - 217にもある：

「完全で十分な赦しと義認」「しみも、しわも、そのたぐいのものが一切なく、清くて傷のない栄光の姿の教会」「新しい契約が完全に成就する」のはいつだろうか？ 恩恵期間の終了、第三天使の使命の大いなる叫びが終了して後のことだろうか？

● 初代文集 437-439 を見ていただきたい。

「天使は、『聞きなさい』と言った。やがて、わたしは、多くの楽器が、完全に調和して、美しい音楽をかなでているのを聞いた。それは、わたしがこれまでに聞いたこともない美しい音楽で、恵みと憐れみに満ち、高尚で聖なる喜びにあふれていた。それは、わたしの全身を感動に震わせた。天使は『見なさい』と言った。すると、わたしは前に大いにふるわれるのを見たその一団の人々に注目した。わたしは、前に涙を

流し、苦悶しているのを見たその人々を見せられた。彼らの回りの守護の天使は、2倍に増やされた。そして人々は、頭から足まで、武具をまとっていた。彼らは、兵卒の隊のように、規律正しく動いた。彼らの顔は、彼らの耐えてきた激しい争闘と経てきた苦悶とを表していた。しかし、彼らの容貌は、激しい内的苦悶のあとがあったとはいえ、今は、天の光と栄光に輝いていた。彼らは、勝利を得た。そして、彼らは、深い感謝にあふれ、聖なる喜びにみたまされていたのである。

この一団の数は減少していた。ある者は、ふるい落とされて、途中に残された。勝利と救いを尊んでそのために忍耐強く嘆願し苦悩した人々に加わらなかった不注意で無関心な人々は、それにあずからず、暗黒のうちに取りのこされた。そして、彼らの場所は、真理を信じて隊列に加わる人々によって、直ちに補充された。悪天使たちは、なお彼らの回りにつめ寄ったが、彼らに打ち勝つ力はなかった。

わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。多くの人々が縛られていた。夫に縛られていた妻もあれば、親に縛られていた子供もあった。真理を聞くことを妨害されていた心の正しい人々は、今、熱心に真理を自分たちのものにした。親族を恐れる気持ちは全くなかった。そして、真理だけが彼らの前で高められたのである。彼らは、飢え渇くように真理を求めていた。真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである』と天使は言った。

後の雨 / 大いなる叫びと生ける者のさばきの関係。

●生ける者のさばきは、日曜遵守令から始まる！

靈感の書から引用しよう：

「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をしるされていない者

はみな、この獣を拝むであろう」黙示録 13:8（欽定訳、明治訳、大正訳）。全人類は、獣の刻印を受けるか、生ける神の印かのどちらかである。

「法令が発布されて印が押される時、彼らの品性は永遠に清く、しみのない者となるであろう」（5T216）。

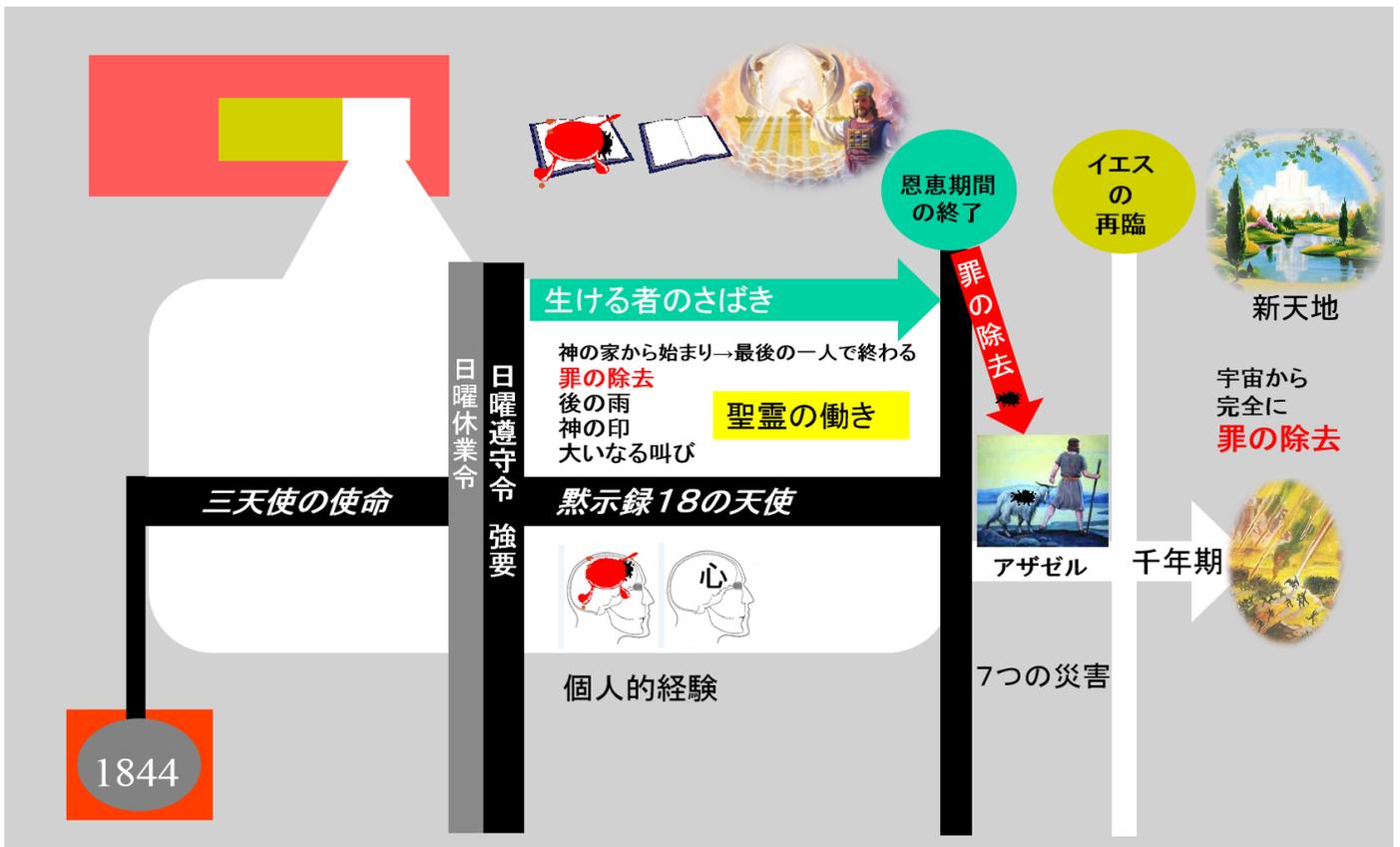
「主は私に、恵みの期間が閉じられる前に、獣の像が形作られるということをはっきり示された。なぜなら、それは神の民のための大いなるテストだからである。それによって彼らの永遠の運命が決定されるであろう。… [黙 13 : 11-17 を引用] … これは神の民が印される前に受けなければならないテストである。」Letter 11, 1890 スタディバイブル（新）585, 586

まとめると次のことがはっきりする：

- ① 生ける者の裁きは、まだ未来のことである。
 - ② 法令が出される時、獣の像が形作られるときは、永遠の運命を決定される時である。
 - ③ その時はさばきの時で、神の印か獣の印かと永遠に分離される時である。
 - ④ 生ける者のさばきは日曜遵守令が強要されるときから始まる。
 - ⑤ 神の印を受けるという事は、品性が永遠に清くされたことの証拠である。
- 生ける者のさばきは日曜遵守令から始まり、まず、セブンスデー・アドベンチストから始まる。その間、光を受けていない者たちにとって神のあわれみの期間である。

「さばきが神の家から始められる時がきた。それが、わたしたちからまず始められるとしたら、神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか」（1ペテ 4:17）。

「審判において、記録の書が開かれる時に、イエスを信じたすべての人の生涯が神の前で調べられる。われわれの助け主であられるイエスは、この地上に最初に生存した人々から始めて、各時代の人々のためにとりなし、現在生きている人々で終わられる。すべての名があげられ、す



べての人の事情が詳しく調査される。受け入れられる名もあれば、拒まれる名もある」(大争闘下 215)。

●初代文集 437-439 に見たように、日曜遵守令は「最後のテスト」であり、民の永遠の運命を決定する事件である。それによって神の民に大いなるふろいが起こる。SDAの多くの者がふるわれ、賞賛される多くの星(指導者)が暗黒に追い落とされる。罪の除去、聖霊による生ける神の印を受け、彼らは、完全に一致して「義をもってすみやかに」大いなる叫びをする。多くの者がバビロンから出てくる。彼らの方がもっと大いなる熱意をもって御業を完成する。

- ① 調査審判と罪の除去と後の雨
- ② 後の雨と神の印=品性完成。TM506
- ③ 永久に罪のゆるし、すなわち罪の除去=消し去る
- ④ 最後の仲保の祝福を受ける資格を調べる調査審判。大争闘下 136。最後の仲保の祝福とは、永久に罪が除去されて再び思い出さなくなること、後の雨の満たし、品性完成のしるしとしての神の印。
- ⑤ イエスと同じように罪なき状態に仕上げられる。大争闘下 396-397

上記の祝福は、生ける者のさばきにおいて、ワンパック(ひとまとまり)として与えられるものである。

大祭司イエスが至聖所におられる間になされる事件：

初代文集 451-452；大争闘下 385 には、恩恵期間の終了時にはすべて終わっていることが明瞭である。恩恵期間終了時に、アザゼルに罪を負わせる時に罪が除去されるのではない。

罪の除去は瞬間的になされるのか、それとも徐々になされるのか？

- ある人は「(罪の除去)は、後の雨によって除去されるのではなく、ある一定の期間降り続ける後の

雨の力によって、私たちの心に残っている世俗的なところが告白されて贖われ、そしていよいよすべての罪が赦された時点で罪が除去される」と言っている。

- ① 後の雨 / 大いなる叫びの間に罪の除去がなされると言っているのだろうか？ とするなら、後の雨 / 大いなる叫びの間、まだ克服されねばならない罪が残っているというのであろうか？
- ② 「世俗的なところが焼き尽くされる」という表現は、大争闘下 395 頁「大いなる悩み」の章にある。国と指導者下 195 頁には汚れた衣が永久に脱がされる、すなわち罪の除去の前に書かれているので筆者は、その順序に混乱したことがあった。「世俗的なところ」は罪ではないと思っていた。しかし、証の書を調べていたら、世俗的なところ = earthliness は、必ず selfishness = 利己主義と一緒に出ている。それは、やはり罪であり、罪の根源であるので取り除かれなければならないことが明白となった。
- ③ 罪のゆるしは瞬間的になされた。み言葉が「ゆるされた」と宣言された瞬間に罪はゆるされるのである。天地創造の時にみ言葉によって瞬間にそれぞれ現れたように、これが全能の主のなさることなのである。信者の心に成し遂げられる主の恵みの最後の奇跡である。
- ④ 人の心からも、天の聖所から民（共同体）の罪をアザゼルに負わせるときも、千年期の終わりに宇宙から罪を除去する時も主の口で宣言され

るとそうなるのである。詩篇 33:6,7

「万軍の主は言われる、見よ、ヨシユアの前にわたしが置いた石の上に、すなわち七つの目をもっているこの一つの石の上に、わたしはみずから文字を彫刻する。そしてわたしはこの地の罪を、一日の内に取り除く」ゼカリヤ 3:9。

至聖所における最後の贖い、恵みの業の完成とは何と驚くべき御業であろう。だから、「彼らはよいしるしとなるべき人々 (men wondered at = まことに驚き感嘆すべき人々)」と言われているのである。ゼカリヤ 3:8。

恩恵期間の終わりに関する出来事ははっきり示されている！

「イエスの死は、まるで主がなんの予告もしておられなかったかのように、彼らの望みを徹底的に打ち砕いたのであった。キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。(人類の) 恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとうかがっている。彼らは悩みの時に備えができていない」(大争闘下 359)。

INFORMATION

～お知らせ～

田舎に住みたい方は、下記までご連絡ください。

greenmint7@hotmail.com

「『都会から出よ、都会から出よ！』—これは主が私に与えられたメッセージである」CL32

「神の民が混雑と混乱のある町に住むことは神のみ旨ではない。…主はご自分の民が田舎へ引っ越すように望んでおられる。…家族を町から離すようにとすることがわたしのメッセージです」2SM356。

—京都の田舎の家—



船は無事に目的地に着くか？ 船とは何か？

ビル・ヒューズ牧師

今日、多くの人、船に乗ってさえいれば無事に目的地に着くと考えています。多くの方は、いわゆる教団という組織に我々が乗っているならば、天国にそのまま導かれて行くと考えております。エレン・ホワイトは、確かに船は航行して目的地に着くと言っています。しかし、問題は、船とは何を意味しているのか、いつか必ずや目的地、天国の岸に着くその船とは何でしょうか？教会とは何でしょうか？このことについて学んでみたいと思います。

「教会は倒れそうになるかもしれないが、倒れることはない。それはシオンの罪人たちがふるわれるまで、穀と尊い麦がえり分けられるまで存在する」。アメリカにおいて教会から追い出された人たちもおりますが、よく教会や教団から追い出された人たちが罪人だと思われることがあり、教団の中に留まっている人たちが聖なる麦と思われれます。エレン・ホワイトが言っておられることはそういうことでしょうか？「これは恐るべき試練であるが、起こらなければならない。小羊の血と彼らの証によって勝利する人々だけが、しみも罪もなく、その口に偽りのない、忠実かつ真実な者であることが分かるであろう…」(スタディバイブル(新) 459 ページ)。

これ以上エレン・ホワイトは、はっきりとおっしゃることが出来なかったと思います。この「尊い麦」というのは「小羊の血と彼らの証によって勝利する人々」のことです。今日、真

の教会とは「小羊の血と彼らの証によって勝利する者たち」のことです。教団にしようが、自給伝道の組織にしようが、いずれも忠実で誠実な者たちによって教会は構成されているのです。もみ殻というのは、小羊の血と彼らの証によって勝利を得ることの出来なかった者たちのことです。エレン・ホワイトは、次のように述べています。「真理に従うことによって、自らの魂を清くする残りの者は、試みの経験から力を得、周囲を取り巻いている背信のただ中で聖潔の美を示す」。

患難から栄光へ上巻3ページに非常にはっきりとした言葉があります。「教会は神が反逆した世に持っておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。教会への裏切り行為は、ひとり子の血によって人類を贖ってくださった神に対する反逆である。世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。いつの時代にも主は見張りびとをおもちになっていた」。見張り人は、たとえ教団、自給伝道組織から追い出されても、忠実であればまだ神の教会を構成しているのでしょうか？教会の目に見える組織に属しているか、あるいは自給伝道のある組織に属しているか、この地理的なものではなくて、忠実であるかということが問題なのです。この地上の教会を構成しているのは「世のはじめから忠実な人々」であると、エレン・ホワイトは述べています。

もし、大きな教団の中であって、その教会が背信し、その中で教育された牧師が背信しているとするならば、忠実な教会員でしょうか？それとも背信しているのでしょうか？エレン・ホワイトは何と言っておりますか？「忠実な魂がこの地上における教会を構成している」と言っています。キリストに対し忠誠を尽くしている者がこの地上で「神の教会を構成している」のです。もし、皆さんが少数でそして忠実に神様の働きをしているならば、教団からはじき出されても、なお真の教会を構成しているのでしょうか？「神の教会は忠実な魂によって構成されている」ということです。イエス様は教団があるところに私もともにいるとおっしゃいましたか？それとも、たとえ2, 3人いたとしても、わたしの名によって集まるならば彼らの中に私もいるとおっしゃったのでしょうか？

この船に乗っていれば、目的地にたどり着けるのですが、多くの方は、「組織の中に留まってさえいれば、神さまの御国に無事に着く」と考えています。それは私たちが安心させる考えかもしれませんが、はたして真実でしょうか？歴史をひも解いて、多くの方が考えていることが本当かどうか考えてみたいと思います。エレミヤの時代の民のメンタリティー（考え方）は、ちょうど今日の信者の考え方と同じでありました。

「万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、あなたがたの道とあなたがたの行いを改めるならば、わたしはあなたがたをこの所に住まわせる。あなたがたは、『これは主の神殿だ、主の神殿だ、主の神殿だ』という偽りの言葉を頼みとしてはならない。もしあなたがたが、まことに、その道と行いを改めて、互に公正を行い、寄留の他国人と、みなしごと、やもめをしえたげることなく、罪のない人の血をこの所に流すことなく、また、ほかの神々に従って自ら害をまねくことをしないならば、わたしはあなたがたを、わたしが昔あなたがたの先祖に与えたこの地に永遠に住まわせる」（エレミヤ 7:3 - 7）。

エレミヤの時代のセブンスデー・アドベン

チストは非常に深い背信に陥っていました。「どうしてそんなことなのか」と言われるかも知れません。エレミヤの時代にセブンスデー・アドベンチストということはなかったはずですが。彼らは何日目に教会へ行きましたか？第七日目安息日に教会へ通っていました。だから「第七日目……」であったはずですが。そして、彼らが待望していたお方は誰でしたか？メシヤ待望者であったのです。もし皆さんがキリストの再臨を待望している者ならば、アドベンチストであります。エレミヤの時代の教会の信者はセブンスデー・アドベンチストでありました。

エレミヤは当時のセブンスデー・アドベンチストに向かって、当時の教団とつながっている事を頼みとしてはならないと言いました。エレミヤは「どんな建物も組織もあなたを守らない」と言ったのです。エレミヤは信者の清められた生活を訴えたのであります。

「見よ、あなたがたは偽りの言葉を頼みとしているが、それはむだである。あなたがたは盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに香をたき、あなたがたが以前には知らなかった他の神々に従いながら、わたしの名をもって、となえられるこの家に来てわたしの前に立ち、『われわれは救われた』と言い、しかもすべてこれら憎むべきことを行うのは、どうしたことか。わたしの名をもって、となえられるこの家が、あなたがたの目には盗賊の巣と見えるのか。わたし自身、そう見たと主は言われる」（エレミヤ 7:8 - 11）。

これらの忌むべき事、悪いことを行いながら、改めずして教会に来ては全てがうまくいっていると言っていたのです。人びとはソロモンの神殿につながっているから、だから安全だと思っていたのです。世界の驚異のひとつである教会のひとつに行って安心していたのです。安息日ごとに教会に行くからといって、週日は悪いことをしてもいいと罪の言い訳をしていたのであります。神殿は彼らに安心感を与える毛布のようなものであったのです。

ところが、ネブカデネザル王がエルサレムに来てどういうことが起こりましたか？ソロモ

ン神殿にいたどれくらいの人たちが保護されましたか？当時の教会の組織にいたからといって、どれくらいの人たちが救われましたか？セブンスデー・アドベンチストであったソロモンの神殿は安全に無事に航行したのでしょうか？この驚くべきソロモンの神殿、それはずっと続いて航行したのでしょうか？ソロモン神殿は破壊されました。エレミヤの時代のアドベンチスト組織は崩壊したのです。

エゼキエルが何と言っているか、その言葉に耳を傾けましょう。当時の指導者たちについてこう描かれているのです。「時に霊はわたしをあげて、東に向かう主の宮の東の門に連れて行った。見よ、その門の入口に二十五人の者がいた。わたしはその中にアズルの子ヤザニヤと、ペナヤの子ペラテヤを見た。共に民のつかさであった。すると彼はわたしに言われた、『人の子よ、これらの者はこの町の中で悪い事を考え、悪い



計りごとをめぐらす人々である。彼らは言う、「家を建てる時は近くはない。この町はなべてであり、われわれは肉である』と」（エゼキエル 11:1 - 3）。

エゼキエルは偽りの預言者たちによって「この町は大きな鍋のようなものである」。これが教会だということです。当時のアドベンチストの指導者はこの鍋の中にいたならば安全だ、守られると言われたということです。彼らは安全でしたか？昔のアドベンチスト教会は、永遠の都にいたというだけで安全に守られていると思込んでいました。教団教会とつながってその一員となっていれば救われると思っていました。バベルの塔は安全でしたか？あの巨大な塔はずっと続いたのでしょうか？ソロモンの神殿は今日も続いていますか？背信したアドベンチストは、天国の岸にたどり着くのでしょうか？

「**こ**の人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」（使徒行

伝 4:12）。救いは建物、教団、組織にあるものではありません。救いは主イエス・キリストに自分を捧げることにあるのです。

「**心**に神の律法をしるされる民に、神の恩恵が保証されている。彼らは神と1つである（当時のアドベンチストは神から引き離されてきました）。ところがユダヤ人は神から離れていた。罪のために、彼らは神の刑罰の下に苦しんでいた。彼らが異教国家の支配下にある原因はここにあった。彼らの心は罪とがのために暗くなっていたが、昔神が非常に大きな恩恵をお与えになったので、彼らは自分たちの罪を大目にみていた。彼らは自分たちが他国民よりもすぐれていて、神の祝福を受ける資格があるとうぬぼれていた」（希望上 107、108）。

エレミヤ、エゼキエルの時代の古代アドベンチズムにどんなことが起こったのでしょうか？ソロモン神殿は完全に破壊されました。エルサレムのセブンスデー・アドベンチストの組織は破壊されました。ソロモン神殿と組織が破壊された時、神の真の教会はどこにあったのでしょうか？ソロモン神殿が破壊された時、神の教会も破壊されましたか？神の教会はずっと継続していきました。ソロモンの神殿が破壊された時、神の教会を構成したのは誰でしたか？エレミヤ、エゼキエル、ダニエル、シャデラク、メシャク、アベデネゴといった人たちによって、教会は構成されていたのです。神の教会はずっと継続しました。そして神の忠実な男女によって、神の栄光は全世界に伝わって行ったのです。教会は落ちかかろうとする手前まで来ますが落ちはしないで、ずっと継続してきました。背信が破壊したのです。しかし、神の真理は継続して今までやって来ました。エレン・ホワイトのいう「教会は落ちかかろうとするところにまで来る、そういうふうに見えるが落ちはしない、それはずっと継続して行く」とは、そういう意味であります。

古代世界の驚異のひとつであったソロモン神殿は破壊されました。教会は建物でもなければ、組織でもないということが分かりますね。

ソロモン神殿崩壊から学ぶ

古代世界の驚異の一つが地上から消滅しました。ソロモン神殿はもはやありません。船は建物でもなければ、建物で礼拝することでもありません。

大いなるバビロンの襲撃から生き残ったのは、忠実な者たちでした。ダニエル、エゼキエル、彼らの友人たちは、神の力の偉大なあかしを残してくれました。彼らは神の真理を保管してくれたので、彼らの証によって世界は今日も祝福されています！



エルサレム滅亡から学ぶ

歴史のもう一コマを見てみたいと思います。それはイエス様の時代、1世紀の時代であります。ヘロデの神殿はその時代の驚異の一つでありました。ここでイエス・キリストも説教なさいました。その神殿の豪華さと壮大さは長い間、古代世界に畏敬の念を起こさせていました。ヘロデの神殿こそ永遠に続くものだとか多くの人びとは考えていました。永遠に続きましたか？続きませんでした。1世紀のセブンスデー・アドベンチストの中心でありました。人びとはこの教団、教会にずっと続けているならば、あなたがたの救いは保証されていると教えられていたのです。エレン・ホワイトがどのように描写しているか見てみましょう。

「彼らの目の前には、いま沈んでいく太陽の光を浴びて輝かしいエルサレムがひろがっていた。みんなの目は宮にひきつけられた。それは堂々たる威厳をそなえて、他のすべてのもの

の上にそびえ立ち、ただ1人の真の生ける神を民に示すかのように天を指さしているようにみえた。宮は長い間ユダヤ国民の誇りであり、栄光であった。ローマ人もまた宮の壮麗さを誇りにした。ローマ人によって任命された王が、ユダヤ人と協力して宮を再建してこれを飾り、ローマ皇帝がささげ物によって宮を富ませた。宮は、その力と富と壮麗さのゆえに世界の驚異の1つとなっていた」(各時代の希望下巻8ページ)。

「西に傾いた太陽が空を色どって輝かせると、そのまばゆい輝きが宮の純白な大理石の壁を照らし、黄金をかぶせた柱をきらめかせた。イエスとそのあとに従っている者たちが立っている山の頂からみると、宮は黄金の尖塔をもった巨大な雪の建物のようにみえた」(各時代の希望下巻10ページ)。

この壮大なヘロデの神殿は、当時もっとも驚異でありました。その当時のセブンスデー・アドベンチストは、この教会に、組織に留まっているならば、どんなことが起こっても必ずかの岸に導いてくれると思わせられていたのです。しかし、自給伝道者であったバプテスマのヨハネやイエス様が「悔い改めよ、天国は近づいた」と述べ伝えた時に人びとの間に混乱が生じました。人びとは一生の間どういうことをしていても、安息日毎に教会に来てつながっておれば、心配することはないと教えられていたのです。バプテスマのヨハネと自給伝道者のイエス様は、「この神殿、組織を頼みとしてはならない、それはあなたがたを救うことができない」と言われました。バプテスマのヨハネもイエス様も「真の教会は、心から神に誠実な者で構成されている」ということを知っていたからです。イエス様は、このヘロデの神殿が破壊される時が間近であることを知っておられました。古代セブンスデー・アドベンチストは「これは破壊される、決して継続しない」ことを知りませんでした。ルカ19章の41節にイエス様の言われた言葉が書かれています。

反逆がそれを破壊した！！

「いよいよ都の近くにきて、それが見えた

とき、そのために泣いて言われた、『もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの目に隠されている。いつかは、敵が周囲に塁を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである』(ルカ 19:41 - 44)。

バプテスマのヨハネ、イエス様は自給伝道者であったのですが、彼らは教会組織からはのけ者にされていました。ヘロデの神殿、教団の組織の指導者たちは、「あの自給伝道者たちのいうことを聞くな。ただ教会につながっていなさい」と言い聞かせていたのであります。「彼らのいうことは聞くな」と言ったばかりではなく、「あなたがたの什一や諸献金で彼らを支えてはならない」と言ったのです。このエルサレムにある教団、組織は必ず継続するものであるから、それを支えなさい」と言うわけです。そうしたら、教会の信者たちはどうしましたか？信者はどんなことがあろうと、教会の組織に献金を納めなさいと教えられていたのです。彼らが言うのには、「教会の働き人、あるいは教会がどんなに背信しようと問題ではない。ただあなたがたはそれを援助すべきだ」と。

もし皆さんが1世紀の時代に生きていたとしたら、皆さんはどちらを支援したでしょうか？背信した教団を支援したでしょうか？それとも自給伝道をしている、メッセージを忠実に伝える者たちを支援したでしょうか？ずっと継続していったのは、あの美しいヘロデ神殿だったでしょうか？それは長い間存続していた組織でありました。バプテスマのヨハネとイエス様の自給伝道の働きは、小さな働きでありました。しかし、忠実に神の働きに献身していました。それで、ヘロデ神殿にどんなことが起こりました？この教会を象徴するヘロデの神殿はずっと継続していたでしょうか？それは神の教会だったでしょうか？読んでみましょう。当時のセブンスデー・アドベンチストの指導者たちがどういうふうに教えていたか、よくよく気をつけて見て下さい。



助けがなかった！

「礼拝者が祭壇の前で殺され、聖所は死体によって汚された。しかし、この凶悪な行為の扇動者たちは、その盲目で神をないがしろにした思い上がりから、エルサレムは神ご自身の都であるから、滅亡する恐れはないと公言していた。彼らは権力を確保するために、にせ預言者を買収して、ローマの軍隊が神殿を包囲している時でさえ、神の救いを待つべきであると人々に言わせた。群衆は、至高者であられる神が敵を滅ぼすために介入なさることを、最後まで信じていた。しかし、イスラエルは、神の保護を退けてしまっていたから、今、何の防備もなかった」(大争闘上 16 ページ)。

教団の背信はずっと続いたでしょうか？この背信した教会に忠誠を尽くした人たちは、生きのびたでしょうか？預言者の言ったとおりに、1世紀のセブンスデー・アドベンチストは神から見捨てられていました。もう神の律法、あるいは聖所のことなんか聞きたくなかったのです。ただ、世に倣って生活していました。この世の神々を拝み、それでも神様が彼らを保護してくれると信じていたのです。

「不幸なエルサレムよ。内紛に裂かれ、同志の手で殺害された子らの血が、都の通りを赤く染め、その上異邦人の軍隊が要塞を破壊し、兵士たちを殺害したのである」(大上 16)。

背信したアドベンチズムは焼かれてしまいました。そしてもうひとたび焼かれるでしょう。何がその背信の中を通って行ったでしょうか？誰が生き残ったのですか？その後生き残った人たちは？

さて、エレン・ホワイトは今日のセブンスデー・アドベンチストにこう語っています。

背信は地獄へ行く！

「**魂**の敵はセブンスデー・アドベンチストの間で大改革が起こるべきであるという仮説を持ち込もうとしてきている。そしてこの改革は、我々の信仰の柱として立ってきた教理を放棄し、再組織することにあるというものである。こんな改革が起きたら、その結果はどうなることであろう？神の知恵によって残りの教会にあたえられた真理の原則が捨てられるであろう」。

今日の教会のことを言っていますね。

「**わ**れわれの宗教が変えられるであろう。過去50年間にわたり働きを支えてきた基本的原則が、誤りと見なされるであろう。新しい組織が作られるようになる。新しい種類の本が書かれるようになる。知的な哲学の理論 (intellectual philosophy) が紹介されるであろう。新しい組織の創設者たちは、都会へ行き、目ざましい働きをするであろう。もちろん安息日は軽視されるようになり、それをお造りになった神も同じく軽視されるであろう。この新しい運動を阻止しようとして立ち上がるものは、何であっても許されないであろう。美德は悪徳にまさと指導者たちが説くが、神がとりのぞかれ、神なしでは何の価値もない人間の力に彼らは頼るようになるであろう。彼らの基礎は砂の上に立てられ、嵐が吹き荒れると、建物はひとたまりもなく倒壊するであろう」(1904年、セレクトッド・メッセージ1巻204、205ページ)。

古代バビロンの時の教会のように、エゼキエル、エレミヤの時の教会のように、忠実な者たちによって、全世界に神の真理が伝えられて行きました。やがて、1世紀のイエス様の時代、初代教会においてローマ帝国によって神殿が破壊されても、忠実な者たちが全世界に真理を宣べ伝えて行きました。目に見える巨大な組織は崩壊しても、ヨハネ、ペテロ、ヤコブ、パウロ、そうした忠実な者たちによって、真理は世界に

伝えられて行きました。今日背信しているセブンスデー・アドベンチストも、いつか崩壊するでしょう。嵐が迫ってくる時に、その基礎が破壊されてしまうでしょう。組織は無くなります。しかし、忠実な神の民によって真理はその栄光を全地に満たすような力をもって臨むでしょう。願わくば、神さまの力と恵みによってひとりひとりが支えられますように。そして最後の働きが完成され、最後まで忠実な生き残る者に加わってほしいと思うのです。

目的地にたどり着くのは忠実な民！

- ・バビロンの時代に、地のあらゆるところにキリストの良きおとずれを広めた忠実な者たちがいた。
- ・ローマ帝国の時代にも全世界に真理を広めた忠実な者たちがいた。
- ・今日も同じようなことが起こるであろう！

面白いのは旧約時代のバビロンによって、神殿が崩壊された。そして、新約時代ローマ帝国によって崩壊された。黙示録に書いてある最後の大きいなるバビロン、ローマは何でしょうか？

キリスト再臨直前の最後の霊的イスラエルは、何でしょうか？「神の戒めを守り、イエスのあかし、イエスの信仰を持つものである！」

「**教**会は倒れそうになるかもしれないが、倒れることはない。それはシオンの罪人たちがふるわれるまで、穀と尊い麦がより分けられるまで存在する。これは恐るべき試練であるが、起こらなければならない。小羊の血と彼らの証によって勝利する人々以外、しみも罪もなく、その口に偽りのない、忠実かつ真実な者は見出されない…真理に従うことによって、自らの魂を清くする残りの者は、試みの経験から力を得、周囲を取り巻いている背信のただ中で聖潔の美を示すのである」(Letter 55, 1886年)。スタディバイブル(新)459

「**教**会は神が反逆した世に持っておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。教会への裏切り行為は、ひとり子の血によって人類をあがなってくださった神に対する反逆である。世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。いつの時代にも主は見張りびとをお持ちになっていた」(患難上3)。

「**生**ける宮』はこれらの説のアルファを含んでいる。しばらくするとオメガが続くのを知っていた。わたしは我が民のために身震いした」(ISM 203) (特別な証 Series B, 51-59 Published in 1904)。



例話：

一寸先も見えない闇夜を航海中の船長が、前方にあかりを発見した。このままでは、船同士の衝突は避けられなくなると思われた。船長は速やかに合図を送った。「貴船の進路を十度東に変更せよ」。前方の明かりの主からも合図が送られてきた。「貴船の進路を十度西に変更せよ」。腹を立てた船長はふたたび合図を送った。「こちらは海軍の船長である。貴様が進路を変えろ!」。「こちらは二級航海士ですが、船長が進路を変えて下さい」。怒り狂った船長は、「こっちは戦艦であるぞ。私は絶対に進路を変えないぞ!」と返信した。最後の返事が送られてきた。「こちらは灯台であります。どうすべきかは、ご自分でお考えください」と。巨大な軍艦はゆっくり西に進路を変え、大海原へと戻って行った。間一髪のところ助かったわけである。

セブンスデー・アドベンチストには、聖書と証の書という決して変わらない灯台のあかり、目じるしが与えられているのであるから、自分の意見を固持せず、謙遜に安全な進路に進んで行きたいものである。

「**天**使は、『聞きなさい』と言った。やがて、わたしは、多くの楽器が、完全に調和して、美しい音楽をかなでているのを聞いた。それは、わた

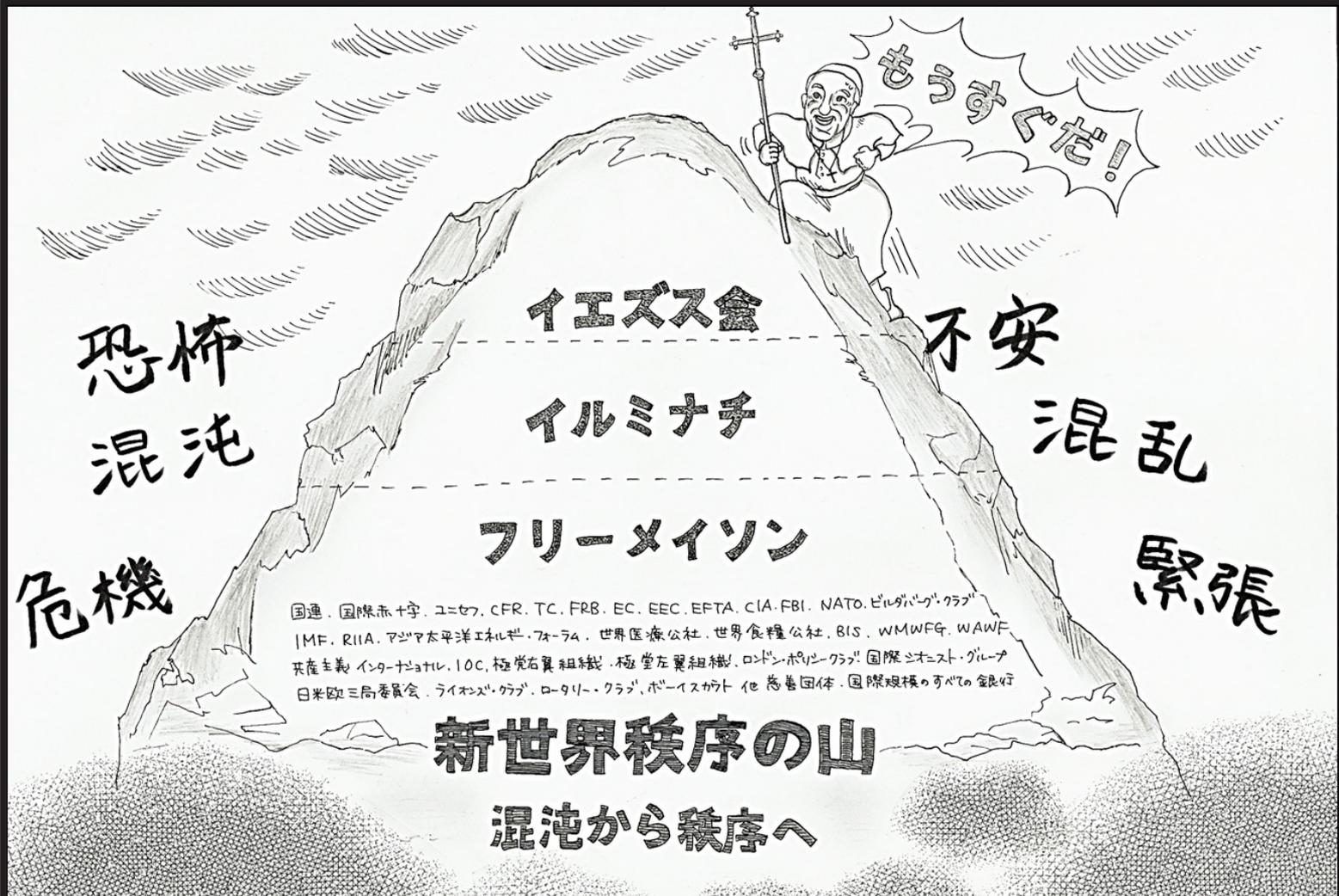
しがこれまでに聞いたこともない美しい音楽で、恵みとあわれみに満ち、高尚で聖なる喜びにあふれていた。それは、わたしの全身を感動に震わせた。天使は『聞きなさい』と言った。すると、わたしは前に大いにふるわれるのを見たその一団の人々に注目した。わたしは、前に涙を流し、苦悶しているのを見たその人々を見せられた。彼らの回りの守護の天使は二倍に増やされた。そして人々は、頭から足まで、武具をまとっていた。彼らは、兵卒の隊のように、規律正しく動いた。

彼らの顔は、彼らの耐えてきた激しい争闘と経てきた苦悶とを表していた。しかし、彼らの容貌は、激しい内的苦悶のあとがあったとはいえ、今は、天の光と栄光に輝いていた。彼らは、勝利を得た。そして、彼らは、深い感謝にあふれ、聖なる喜びにみたされていたのである。

この一団の数は減少していた。ある者は、ふるい落とされて、途中に残された。勝利と救いを尊んでそのために忍耐強く嘆願し苦悩した人々に加わらなかった不注意で無関心な人々は、それにあずからず、暗黒のうちに取りのこされた。そして、彼らの場所は、真理を信じて隊列に加わる人々によって、直ちに補充された。悪天使たちは、なお彼らの回りにつめ寄ったが、彼らに打ち勝つ力はなかった。

わたしは、武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。多くの人々が縛られていた。夫に縛られていた妻もあれば、親に縛られていた子供もあった。真理を聞くことを妨害されていた心の正しい人々は、今、熱心に真理を自分たちのものにした。親族を恐れる気持ちは全くなくなった。そして、真理だけが彼らの前で高められたのである。彼らは、飢え渇くように真理を求めていた。真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。

「**そ**れは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである」と天使は言った」(初代文集 437-440)。



HISTORY

ビル・ヒューズ牧師による 講演のダイジェスト

混沌から作り出される新世界秩序

ヘーゲル弁証法による世界支配



ゲオルグ・ウィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲルは、1770年にドイツで生まれ、1830年に死去。ドイツ人の〔観念論〕哲学者で、今日大いに用いられている歴史哲学を後世に残した。それは、ヘーゲル弁証法またはカオス〔混沌・無秩序〕から生まれる秩序として知られている。ヘーゲル弁証法で大衆を操作する方法。

ヘーゲルの弁証法とは：

1. テーゼ〔定立〕〔命題〕〔正〕を作り、それに

対して

- アンチテーゼ〔反定立〕〔反〕を作り、互いに対立させて、混乱、混沌、危機、恐怖を生まれ、そして
- ジンテーゼ〔総合〕〔統合〕という解決を提供する。

- ヒットラー：ドイツ帝国議事堂焼却— 1933年
- ルーズベルト大統領：真珠湾攻撃— 1941年
- ジエム大統領：ベトナム戦争— 1950年代～60年代
- クリントン大統領：オクラホマ・シティ爆破事件— 1995年
- ブッシュ大統領：9.11事件— 2001年

上の人物らは三つの大陸にわたり 70年もの隔たり

があるが、共通の特徴がある。

ヘーゲルの理念は極めて単純である。目的またはやり遂げたい何かがあったとする。その目的を果たす手段は、人々が解決を探し求めるようになるのに十分な困難を創り出すことである。困難がある程度ひどい状況になると、その時、ずっと考えてきた解決法を提供し始める。こうして、求めているものを得ようになるが、人々は、それはあなたが最初から望んでいたものであることには全く気付かない。大衆は、首謀者〔立案者〕によって計画された方法通りに動く、歩〔将棋の駒・手先〕に過ぎない。

ヒトラー、ドイツ国会議事堂の火災 - 1933年



火災の翌日、2月28日に、〔ヒトラーは〕ヒンデンバーグ大統領を説き伏せて、「国民と国家の防衛のための」法令に署名をさせた。その法令は、個人と民間の自由を保障する憲法の七項を宙ぶらりんにするものであった。「国家を危うくする共産主義者の暴力行為に対する防衛基準」として、法令がだされた。

1933年に彼がドイツで行ったこと、その歴史をご存知だろうか？アドルフ・ヒトラーは、ドイツ国民全体の自由を無くそうと目論んだ。特に国民が所有している銃などの武器を没収するためにまず、ベルリンの政府の建物を燃やしてしまおうと考えた。政府の建物が燃やされ、国民を恐怖に陥れて、こういったことが起こらないように国を安定させるためには、国民の自由を放棄しないといけないですよと訴えたのである。

国民の自由を奪うために1933年にアドルフ・ヒトラーがこのようなテロ事件を演出したのだ。ちょうど1995年に時の大統領ビル・クリントンがテロ事件を利用したように、同じことを行ったのである。2001年にジョージ・ブッシュも同じことをした。

でも、アドルフ・ヒトラーは1940年代に死んでいる過去の人ではないか、どこから彼らはそういった方法を教えられたのかと問われる方がいるかも知れない。ビル・クリントン、アドルフ・ヒトラー、

ジョージ・ブッシュの3名に共通しているものは何だろうか？彼らは誰の青写真に従っていたのだろうか？3名とも彼らのボスである、カトリックの指導者たちの指示に従っていたにすぎないのである。

そのようなテロ事件の後には、個人の自由、報道の自由を含む、意見を自由に表明する権利、集会と会合の自由を制限し、郵便、電信、また電話通信のプライバシーを侵害し、財産の制限と同様に、家宅捜査令状、没収命令も法律上の限度を超えて差し支えないものとした。

ルーズベルトの真珠湾奇襲

ルーズベルト大統領は、日本を戦争に駆り立てるために1941年11月26日に戦争最後通牒（つうちょう）を送りつけた。それは、日本がインド、中国からすべての軍隊を撤退すること、そして中国（満州）は歴史的事実、密接に守られた秘密があるにもかかわらず、あまりに多くを要求していた。ルーズベルト大統領の戦争最後通牒（つうちょう）は意図的に真珠湾攻撃後まで議会に保留されていた…。最後通牒に全員が合意し、日本には戦争のほかには選択肢は残されていなかった…。日本はアメリカとの戦争を避けるためにやれることはやり尽くしていたことであろう…。内閣総理大臣であった近衛公爵は、非常に平和的な人物であり、ルーズベルト大統領に会うためにワシントンやホノルルを訪れたいと繰り返し要求していた。彼は利害調整の戦争に突入しないようにとの条件に同意し喜んでいたのであるが…。

戦争を回避するための、日本側のすべての努力は無駄だった。ルーズベルトと彼のイエズス会の取り巻きは非平和的決議を聞くのだった。日本は過去の1600年代に、イエズス会を追い払った仕返しを受けることになるのだった。



決められた戦争行為だった。だから、日本は攻撃した。ルーズベルトは彼らが攻撃することを知っていて、宣戦布告するための正当な理由を議会に与えた。

「ルーズベルトは今や、日本が米国を攻撃する上で計画していることを知っていたが、それでも彼は真珠湾のアメリカ軍に警告せず、何もしなかった…。ハズバンド・キンメル海軍大将、真珠湾海軍の米国司令官は、真珠湾防衛ができなかったことは明らかにルーズベルト大統領の責任だとした。『我々は真珠湾での用意が整っていなかった。なぜなら、ハワイにいる艦隊への警告は一言も送られてはおらず、ルーズベルト大統領の計画は命じられてはいなかった。』」(目に見えない手 p 282, 283)

このイエズス会の血まみれの操り人形ルーズベルトは、アメリカを戦争に突入させるための言い訳を持っていなくてはならなかった。彼は真珠湾を攻撃するように日本を駆り立てた。彼は、アメリカ国民の命を守るためではなくて、報復心を煽り立てたのであった。彼は冷酷なうそつきだったのである！



ジエム、ベトナム戦争



南ベトナムで、ジエムは同様のことをした。1950-1960年代に、南ベトナム解放民族戦線(NLF、ベトコン)が成立し、ジエム政権とアメリカの打倒を掲げてゲリラ活動を開始、政府軍との内戦状態に陥る(ベトナム戦争の勃発)。1956年10月26日、彼は新しい憲法を發布した。ムッソリーニ、ヒットラーをまねて、彼は自らに完全な独裁権を与える条項(98条)を挿入した。条項の一部は次のようなものである。「最初の立法期間中、大統領は、公的安全、その他正当な要求に応えるため、国民の全的自由一時差し止めを命じることができる。」その条項は1961年4月に期限切れとなるはずであったが、無期限に延長さ

れた。— (ベトナム、なぜ派兵したか) マンハッタン、77ページ

彼は南ベトナムの最高指導者になる前はカトリックの司祭を志していたということである。



ビル・クリントンの反テロリズム法案



イエズス会の訓練と教育を受けたビル・クリントンは、反テロリズム法を議会で通過させるよう指示された。この法案が成立すると、アメリカにおいて、個人の自由が著しく骨抜きにされることとなる。

オクラホマ州の州都のオクラホマ・シティで、政府の建物に爆弾を仕掛け爆破し、これをテロ行為に見せかけた。この結果、約200名のアメリカ人が亡くなった。この事件はアメリカ中、世界中に報道された。「どうなっているんだ」とアメリカ人は恐怖に慄いた。この時にビル・クリントン大統領は絶妙なタイミングで国民に向かって「このようなテロ行為を二度と起こさせないためには、この法律が必要です」と紹介した。憲法に違反するような法律であったにもかかわらず、恐怖に慄いていたアメリカ国民は、「これはいい法律だ」と受け入れた。



ブッシュ、世界貿易センター2001年

—イラク戦争—



ブッシュ大統領の時に起こった世界貿易センター爆破事件、2001年の「9・11事件」として知られている。その時、ブッシュ大統領は、わざわざある小さな小学校を訪ねて子供たちに話をしていた。側近がその旨を囁いたらにやりとしたという。これは、前もって計画され彼はすでに知っていたのである。ブッシュ大統領はアメリカをイラク攻撃に駆り立てた。その時彼が「十字軍」という言葉を使った

ので、側近の人にたしなめられた。イラク戦争でのアメリカの大義名分「テロとの戦い」に踏み切る口実が作られた。

イエズス会の日本侵略

「日本の歴史において、我々は世界中で重大な影響を及ぼしたバチカン侵略の、より際立った例を見ることができる。中国、シヤム（タイ）のように、カトリックの貿易商人と司祭たちが共に協力し合って働き、自分たちの利益の拡大をしつつも最終的にはカトリック教会自体を拡張するのが基本的方針であった。

大方の予想とは裏腹に、西洋とはじめて接触したとき日本は、その商業商品やアイデアの情報交換を熱望したのだった。日本にポルトガル船が初めて上陸してから、外国商人たちは日本の港に寄港することが奨励された。地元の有力者たちは競って西洋の商人たちに彼らの藩を開放した。カトリックの宣教師たちは、商人らと同様に歓迎され、この新しい土地に瞬く間にカトリックの信仰は広まった。」マンハッタン、(ベトナムへ、なぜ我々は行ったか?) p. 145

将軍信長は、1573年から1582年まで、カトリック/イエズス会の宣教師たちに京都を提供したうえ、毎年手当金を約束し、そして彼らの領域全体に自分たちの宗教を促進するための権利を許可した。このような特権によって、ローマ・カトリックへの改宗者は数千人にもおよんだ！

支配へのステップは単純：

1. 日本人に順調な通商（貿易）を持ち込む。
2. 科学、文学、宗教の分野で新しいアイデアを持ち込む。
3. カトリシズムに人々は改宗し始める。
4. 改宗者たちは、金融的、政治的、経済的な成功と発展に赴く。
5. 彼らの望みに応じない者は絶たれる。
6. 最後は、その国を宗教的に経済的に政治的に乗っ取る。



7. 支配者が危険を感じたら、攻撃に出る！

1587年に九州を訪れた秀吉は、カトリックの共同体が（すでに）最も恐ろしい宗教的迫害を実行していたことを発見し驚く。どこでも彼は仏教の寺院の残骸と壊れた仏教の偶像を見た。カトリック教徒は、実際、強制的に九州全土をカトリック化しようとしていた。憤慨した秀吉は仏教徒に対するカトリックの攻撃、宗教的な不寛容、海外の権力への政治的な忠誠、その他本当の軽犯罪を非難し、そしてすべての外国のカトリックに最後通牒（つうちょう）を発した。

1596年にスペインの船、サンフェリペ号が難船した。スペイン人の船長は、日本当局に、スペインによる支配陰謀を明かした。

彼は「これらの征服はカトリックの宣教師によって可能になったのだ」と言った。そして秀吉は、次は日本であろうことを知っていた。彼はカトリックの日本乗っ取りを止める処置をとらなければならなかった！！

日本の新しい支配者は、カトリックの政治的影響と西洋遠国の法王のような宗教的政治的君主に忠誠を尽くすこの危険をすどく見抜いていた。…彼らが日本を去るまで、20日しか残されていなかった。京都と大阪にある教会と修道院が仏教徒への攻撃に対する報復として破壊された。そして部隊が九州に送られた。



長崎の26人の殉教者

1597年2月、長崎において、二十六聖人一6人はヨーロッパから来たフランシスコ会の宣教師、3人のイエズス会と3人の少年を含む17人の日本人の信者の処刑が行われた。彼らは十字架にはりつけられ、槍で突き刺された。カトリックの潜入者たち26人は幕府に対する反逆罪で当然のことながら殺された。ローマ法王教は、彼らの事を信仰のために死んだ殉教者としてたたえている。

「秀吉は1598年に死んだ。そして、家康が

1616年に日本の支配者になって、さらにいっそう厳格に追放布告が再開されるまで、カトリックの激しい活動が再びなされた。



秀吉の死後、家康と家光は、イエズス会士 / カトリックの宣教師を日本から追放する方法を模索した。彼らは、もしカトリックの活動を止めなければ、日本が乗取られることを知っていた。

外国の司祭が再び日本を去ることを命じられた。そして日本の『キリスト教徒』には『キリスト教』を放棄しなかったならば、死刑が課せられた。この迫害は、1624年に、すべてのスペインの商人と宣教師をすぐに追放すべしと命令した家光の下でいっそう猛烈な方向転換をした。日本の『キリスト教徒』はもう外国の宣教師に従わないように、そして日本の商人は、カトリック勢力と取引しないようにと警告された。

これらの法令が尊重されたことを確認するために、2,500ブッシェル以上の米を運ぶことができたすべての貿易大型船は破壊されなければならなかった。徳川幕府は、日本でカトリックを踏みつぶすことに決めたのであった。さらに1633-1634と1637年の布告は、日本国でのすべての外国の宗教を完全に禁止したのであった」 Manhattan, pg. 152

迫害は散発的に続き、1632年9月10日55人のキリシタンが長崎で殉教。グレート元和殉教として知られるようになった。この時点ではローマカトリックが正式に非合法化された。教会は聖職者がいないままになり、神学教育は、19世紀の西洋の宣教師の到着まで崩壊した。



島原の乱

内戦が日本で紛糾（ふんきゅう）した。日本人カトリック教徒は幕府に反対して戦うためにイエズス会修道士司祭によって武装させられた。血みどろの争いがローマ教の日本占拠という唯一の目的のために行なわれた。島原の代官・林兵左衛門を殺害し、島原の乱が勃発。



カトリック軍は島原の要塞でバリケードを築いた。プロテスタント・オランダの支援で、日本人は要塞を砲撃して、ついに城内のすべてのカトリック教徒を破滅させることができた！ 反乱は止められ、そして結果は1639年の鎖国令であった。

西洋キリスト教、あるいはローマ法王教の日本との関与は、血まみれで、狡猾で、そして残酷であった。法王教は、日本支配に対する彼らの願望をさらけ出した。そこにはキリスト、その愛とその親切さというものは何もなかった。それはすべて貪欲、力のための欲望と全体の支配であった。

250年の鎖国とイエズス会の仕返し



しかしながら、ローマは決して忘れてはいない。そして報復が来ることになるのであった！

1853年ペリーの到着は、西洋の勢力に日本を開放させるためと、ローマの日本上陸と、ローマ・カトリック教の毒で日本を感染させ、復讐をもた



らす絶好の機会だったということを意味していた。

孝明天皇の暗殺



朝廷の認可なしに、天皇の拒否にも関わらず署名された神奈川条約やハリス条約などの西欧列強との不平等通商条約の調印によって追い込まれた天皇は、二度にわたって抗議として天皇を辞任する意志を表明した。…孝明天皇は反西洋意見に同意しており、また、何世紀にもわたる皇室の伝統を打ち壊し、国事に積極的な役割を果たすようになった。機会が生じたとして、彼は条約を声高に批判し、幕府継承に干渉しようと試みた。「野蛮人を追放せよ」との彼の努力は1863年に最高潮に達した。…

1867年1月に、天皇は天然痘と診断された。孝明天皇はそれまでに一度も病気になったことがないと言われていたので、これは驚きを引き起こした。

1867年の1月30日に彼は致命的な嘔吐や下痢の激しい発作に見舞われた。天然痘の症状である紫色の斑点が彼の顔に見られた。おそらく長州からの過激派によって、彼は暗殺されたと広く考えられている。彼はますます困難な状況下で、日本のために進むべき道を明確にしようと努め、将軍と双方歩み寄ろうとしていたのだ。彼が病気にかかる以前に接触した人物らに、感染していたという徴候はなかった。そのためハンカチもしくはウイルスに汚染されたものがいくつかの伝達手段を通して皇居にもちこまれたと考えられている。

結果は？

1. キリスト教禁止令は、最終的に1873年に撤廃された。その結果、カトリック/イエズス会が国中を侵略。
2. 権力は一人の人物、イエズス会管制官に命を奪われることを恐れていた明治天皇に集結された。

「日本の昭和天皇と彼の武将たちの統治下において、東条は帝国陸軍を使ってプロテスタントを迫害しつつも、カトリックの宣教師たちに恩恵を与える指示を出した。イエズス会は、1944年1月に彼らの評論誌【アメリカ】で宣言した。『…太平洋諸島で逮

捕されたアメリカやイギリスの市民たち、そしてとくにすべてのプロテスタントの宣教師たちは、ドイツのものより粗悪な強制収容所に抑留された。だが…7500人のカトリック宣教師たちは依然として自由のままであり、援助を受けていて、しかも日本軍当局によって公式に保護されていた』。ヨーロッパに対抗するパチカン p. 226

明治天皇

明治政権の間に、彼はイエズス会の古くからの二つの敵、1895年に中国を、1905年にロシアを攻撃した。中国は1716年と1783年にイエズス会を追放していた。ロシアは1820年にイエズス会をロシアから追い払った。日本は、ローマの汚い仕事をするために用いられていたが、その仕返しはやってきた。明治天皇は1868年から1912年までローマに管理されていた。



極東のイエズス会は、日本と決着をつける手立てを持っていた。将軍家康が1614年に正式にイエズス会を追放し、その後250年間にわたって入国が禁じられていたことが記憶されていた。

イエズス会は将軍に辞任することを強いて、明治天皇の支配のもとに、正式に1865年に再入国し、最終的に米国との戦争のお膳立てをしたのである。1924年にそれを見ることができると。

オバマのホワイトハウスに大変革



オバマ大統領は確かに正しかった。彼の大統領職の合言葉“Change”チェンジ=変革は近づいている。特に、彼に任命された人々の多くがイエズス会の訓練を受けた者たちであることを考えると。例えば、オバマ

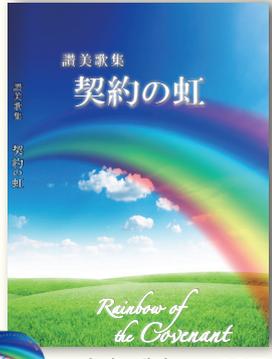
の主任演説原稿作成官、ジョン・ファヴロー、オバマの上級軍事顧問官及び外交政策顧問官J・スコット・グレイション少将、オバマのホワイトハウス広報部長、ダン・ファイファー等はみな、イエズス会の訓練を受けた者であった。副大統領ジョー・バイデンはイエズス会士である。

NEW!
讃美歌集&CD

契約の虹

讃美歌 160 選

日本基督教団讃美歌、聖歌、リバイバル聖歌、他から 160 曲を選びました。音程が高い調は低くして歌いやすくしています。全 160 曲を収録した音楽 CD もできました。



本 (A5版) : 1,600円
CD (8枚) : 4,000円
本&CDセット : 5,000円

わたしの聖書が一番!

こどものための聖書研究ガイド_第1巻

小学生からのこども向け聖書研究ガイドができました。天地創造からアブラハムの犠牲までの聖書の学びがイラストもたくさん入ってわかりやすくなっています。



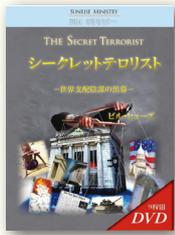
A4, 105ページ 500円

2014年6月セミナー収録集

シークレットテロリスト

ビル・ヒューズ

現代社会の脅威はアルカイダ、タリバン、ホコ・ハラム、ハマース、ヒズボラ等々とありますが、世界を操る真の秘密テロリストは何かを暴露してゆきます。全 18 講義収録。



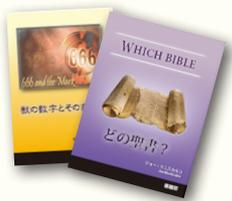
DVD (12枚) : 3,000円
CD (23枚) : 3,000円
MP3 (2枚) : 800円
本 (A4) : 300円

あのLLTDドキュメンタリービデオが書籍に!
獣の数字とその刻印

古代バビロン、異教シンボルを比較。世界の大聖堂、彫刻、教え、習慣はどこから来たかを暴露します。

どの聖書?

次々翻訳される聖書。混ぜ物のない真の聖書と改悪された聖書の二つの流れをたどりま



各200円

インターネットでもご覧になれます



サンライズミニストリー

検索



Sunrise Ministry | Facebook
<https://www.facebook.com/srsministry?ref=hl>



Sunrise Ministry | Youtube Channel
https://www.youtube.com/channel/UC_MrvUh7GCW2yGpWmYNSGxA

神の愛によるいやし

サンズ・リー著

遺伝子が休息を求めている?! 医学的見地から見る遺伝子に働く神の愛の力を探ります。



B5, 116ページ 500円

SUNRISE MINISTRY
サンライズ ミニストリー刊行誌

Anchor

アンカーNo.51
発行人 金城 重博

〒905-0428
沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471
E-mail: contact@srministry.com
郵便振込番号: 02080-0-12121
サンライズミニストリー

www.srministry.com
TEL (0980) 56-2783
FAX (0980) 56-2881

「アンカー」:目的と編集指針

私たちは次のことを信じてアンカーを出版しています。

1. 我々SDAの働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 三天使の使命は人々をキリスト再臨に備える特別な最後の使命である。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖い清めを受ける。(初代文集 414, 5,7)
4. 我々は神のご計画されたこの特

別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年以来 (RH26, 1890年)

5. ダニエル書8:14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(1SM 36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性

質、イエスの証(預言の霊)等である。(黙12:17, 19:10,22, 初代文集417, 1T 300)

8. アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の

今日の、義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたい。

9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、近い将来、「最後の試練」(黙13章)が来る時、多くの者がふるわれ、代わりに諸教会から真実な多くの者が出てきて最後の純潔な「女の残りの子ら=レムナント」を構成し(黙18章)、永遠の福音伝は短期間に終わると信じる。激しいふるいの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。